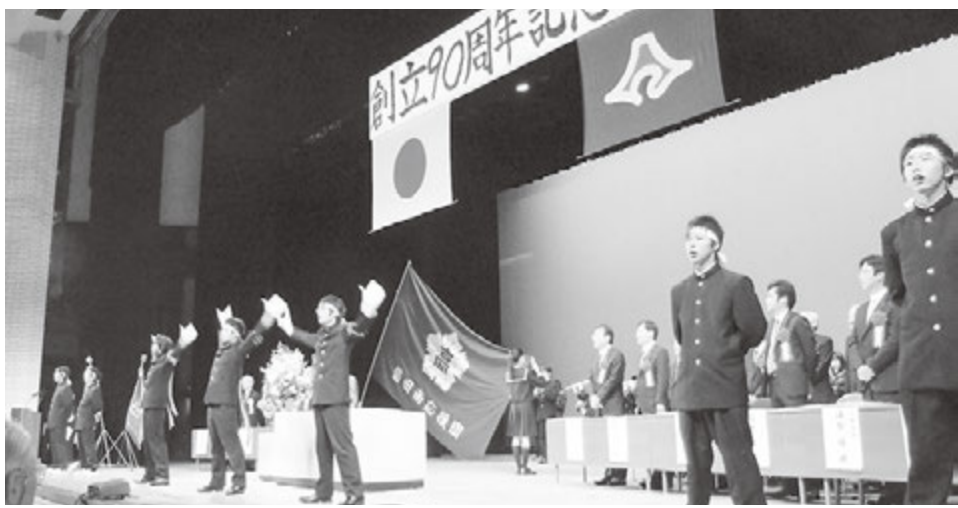


創立90周年記念式典開催

平成24年11月14日
於 磐田市民文化会館

**全員起立
「質実剛健・文武両道」
声高らかに校歌斉唱！**

(関連記事3頁へ)



輝く100周年に向けて 伝統の重みと建学の精神を胸に

つなげる伝統、
つながる心
総会実行委員長
高44回 勾坂真也



る高44回生の金原晃子さんとの軽快なトークで会場を大いに盛り上げていただきました。

8月18日、多くの諸先輩、学校関係者、同窓生の皆様方のご支援、ご厚情を賜りまして、第87回同窓会総会・懇親会が無事開催されましたこと、担当年次といたしまして心より御礼申し上げます。この度、表彰を受けられました見中17回、南高6回、高16回の皆様方にお祝い申し上げますとともに、猛暑にもかかわらず、総会・懇親会とも多数の同窓生の皆様のご臨席を賜り、盛況のうちに終えることができましたことをここに報告申し上げます。

懇親会では、本年度のテーマ「つなげる伝統、つながる心」を南高44回生の音楽家、山下康介氏により、世代を超えた音楽のつながりで表現させていただきまし。また、司会のラジオDJとしても活躍されてい



「つなげる伝統、つながる心」の演奏会



見中・磐田南高等学校 同窓会だより

第35号

発行日

平成25年10月10日

発行者

見中・磐田南高等学校同窓会
発行責任者：櫻井孝順

同窓会ホームページ

<http://www.iwatanet.com/bannan/>

第87回 同窓会総会開催



平成25年8月18日 於 磐田グランドホテル

受賞者
喜びの談

金
卒業70周年(中17回)
挨拶は木船賢二郎さん



本日、私達は卒業70周年の金メダルを頂戴いたしました誠にありがとうございます。

小学校入学前年に満州事変、6年生の昭和12年に支那事変が勃発しました。「今は非常時代」が世間に流行しました。

今までの学生服と違い帽子や服は、全部国防色に統一されました。修学旅行は停止され、軍事教練の比重が高まりました。戦争の時代を過ごしたわけですが尾崎校長の勞作教育による「質実剛健」の精神で成長させてくれました。4年生の時、昭和16年12月に太平洋戦争が始まり戦塵一色の時代となりました。



金賞受賞者



銅賞受賞者

銀

卒業60周年(高6回)
挨拶は伊藤儀三郎さん



60周年のお祝いをして頂いた事を心よりお礼申し上げます。私達は終戦時代に10歳でした。

何もなく校納金も納められない人も多々いました。服装は粗末で常に草履ばかりで、学校には下駄で通い自転車など新しいものは買ってもらえない時代でした。

恩師大先輩の皆様には大変お世話になりました事、改めてお礼申し上げます。

又、立派な後輩達が育っていることは、南高の伝統があつてのもので。

銅

卒業50周年(高16回)
挨拶は山本賢さん



私達は昭和39年の新幹線が開通して、東京でオリンピックが開催された年に、総

勢245名の仲間が卒業しました。現在その内21名が他界しました。卒業してから半世紀です。

中国、唐の時代の詩人李白は「それ天地は万物の逆旅にして光陰は百代の過客なり」と詠い、その詩を引用した松尾芭蕉は奥の細道の書き出しに「月日は百代の過客にして行きかう年もまた旅人なり」と詠いました。

本堂に「光陰矢の如し」とあつた言う間に過ぎました。尚、50周年行事の20万円の資金援助は、はぐま祭の折に校長のところに届けて、総て終えましたので報告します。



銀賞受賞者

感謝の気持ちでいっぱいです。

今後益々南高の発展を願うと共に、長生きして70周年で又お逢いしたいと思ひます。

伝統を守り、伝統を創る



全国各地で活躍されておられます同窓会会員の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

母校の同窓会活動につきましては、日頃よりご理解と協力を賜り厚くお礼申し上げます。毎年1回発行致しますこの「同窓会だより」が会員相互の交流の場としてのお役に立てばと思います。本年度も、同窓会評議員会が6月15日に各年次代表にご出席いただき開催し、前年度及び本年度の諸事業の進捗状況を確認し、今回は昨年度展開された創立90周年の記念

「白熊(はぐま)」と「はぐまるくん」



ある同窓会支部総会の挨拶でこの話を加えたところ、後で同期の仲間のテールから「話が長い」とのダメ出しをいただきました。同期だからと言ってこれだと感謝。

40歳代後半以上の方々はご存知ないと思いますが、磐南には生徒会誌があります。名前は「白熊」。はぐまと読みます。昨年度、30号が刊行されました。つまり、学校創立60周年の年、「はぐま会館」の完成とともに創刊されたのです。当時、私は生徒会の顧問をしていました。そんな日々、毎年県内の多くの高

同窓会会長 高17回 櫻井 孝順

事業及び会務報告を致しました。本年8月18日(日)第87回見中・磐田南高等学校同窓会総会を盛会裡に開催できました。卒業20年目をむかえた高校44回生の主管により、磐田グランドホテルを会場に多くの会員が集いました。20年ぶりに再会した仲間が今回の総会のテーマ「つながる伝統・つながる心」を掲げ、1年余の準備をし、当日は80余名の手厚いもてなしにより、総会・懇親会を盛り上げて下さいました。また、午前中には母校はぐま会館に於いて、卒業30年をむかえた高校35回生の主管により同窓会慰霊祭が厳かに挙行され、毎年評議員の協力でこの1年間に亡くなった恩師・同窓生と年次物故者の御霊

を追悼させていただきまし。伝統を守り、英知を集め母校を追慕する絆は、竹に上下的の節ある如く、10年ごとにそれぞれの役割をしっかりと受けもち継走している大切な姿であります。母校創立90周年、同窓会総会87回を数える今、先人たちの築かれた使命を担ってまいりたいものです。本年は同窓会関東支部が結成60周年をむかえます。設立には尾崎楠馬先生のアドバイスがあったと聞いております。結成された翌年昭和29年2月5日没、本年60年をむかえております。見中退官後も亡くなるまで10年余、教子としての親交を大切にされ、まさしく建学の精神として目指された「社会に貢献できる有為

校から生徒会誌が送られてくるのです。伝統校なのに、我が校にないことは残念。そこで、本部役員に提案してみようと実行すべしとなりました。ただし、活字印刷・製本する予算はなし。ならば、すべて手書きで作成。そこから、原稿を集め、休日返上で印刷用原紙に清書をするという長い作業が続きました。そして、次に、会誌の名前を決める段になりましたが、なかなか候補がみだせん。その時、私が「白熊(はぐま)」はどうかと提案すると、当時の太田学生会長は「それでいきましよう」と断然したのです。「白熊」とは、中国産の動物ヤクの尾の白い毛で、主に僧侶が使う仏子(ぼんす)や、兜や槍に付ける装飾品として武士階級に愛好されました。「家康に過ぎたるものが二つあり、唐のかしらに本多平八(唐のかしらとは「白熊」で飾られた兜)という川柳はお馴染みです。新政府軍の隊士が江戸城から白黒・赤の毛を持ち出し、軍帽として使ったこともありました。黒熊(くま)、赤熊(しゃぐま)と言います。仏子を回したり、かしら飾りが広がった様が、植物の白い花の形状に似ていることから、これが「エンシェウハグマ」と名付けられました。また、その葉の形が、昭和23年校章になったのです。このような所以で、生徒会誌の名前になった訳です。しかし、当時、国語科の先輩から、「しろくま君か!」とぼつりと言われたことは今



南高のゆるキャラ誕生! 名前は「はぐまるくん」!!

慰霊祭のご報告

慰霊祭実行委員長 高35回 幡鎌 俊介



8月18日午前10時より、はぐま会館におきまして、平成25年度慰霊祭を執り行わせていただきました。この1年間の同窓生物故者数は61名。高校35回生の早逝された4名の御霊と共に、平安をお祈りさせていただきました。ご臨席賜りました同窓会役員、学校関係者、高校35回生物故者のご遺族の皆様、そしてそれぞれの役割を果たしてくれた第35回生の仲間たち、本当にありがとうございました。

慰霊祭の席上、我が子に先立たれたご両親、また幼いお子さんの姿に、胸が締め付けられる思いでした。4名の友の無念さを強く感じたのと同時に、改めて生きている自分たちの果たすべき役割や責任の重さを実感しました。

伊藤 律夫

でも記憶しています。

時が流れ、今年度、流行りの「ゆるキャラ」を本校でも作りました。名前は「はぐまるくん」。はぐま祭では、来場者に大人気でしたが、まさに「しろくま」でした。くまのイメージが生徒に定着してしまっていたのです。提案をした自分は、嬉しさで後ろめたさが交錯する複雑な思いで、ぬいぐるみと記念撮影をしました。ただ、「はぐまるくん」が、櫻井同窓会長様からいただいた、仏子を背負っていることだけは救いです。



支部報告

◆磐田支部長



高14回 青島 克樹

見中・南高の絆を大切に

来年度(平成26年)から磐田支部総会の会場が磐田グランドホテルになります。ウィーヴル磐田が業態を変えるためです。磐田には170名以上も収容可能な会場が他に見当たらず苦渋の選択です。本会とは異なる演出で本会とバッティングしないイメージを工夫しなければと悩んでいるところです。

開催日は平成26年4月19日(土)を予定しています。本年の磐田支部総会は皆様のご協力のお蔭で170名のご参加を頂きました。14回卒の橋本洋子さんより「龍馬に繋がる見中魂」というタイトルで初代校長尾崎楠馬先生の建学の精神のお話を頂きました。

◆静岡支部長



高23回 内野 稔

人を繋ぐプラットフォームを目指して

静岡支部は、静岡市及びその近隣の市町に在住又は勤務する(していた方を含む) 母校卒業生で構成しています。年に1度の総会・懇親会では、22年度に現代書家の大杉弘子氏による作品紹介、23年度には静岡大学副学長の確水泰市氏の「糖とインフルエンザ」講演をお願いしました。24年度は原店に戻り交流中心で実施しました。

同窓会を通じて、年齢や職業の異なる様々な人と知り合い、親睦を深め、情報交流や協力し合う関係が生まれることを願っています。

◆関西支部長



高12回 大石 英機

関西支部だより

母校設立90周年の節目の昨年、第20回関西支部総会は、初めて神戸で開催されました。2年前の奈良市開催と同様に地元在住の初参加者が有り大変うれしく思いました。関西地区は京都、大阪、神戸とそれぞれ離れており、時間的にも参加が難しいとの声に配慮して決ったものです。本年度は更に、従来の9月第2土曜日を11月第2日曜日に変更となり、大阪駅近くで開催されることと決定しております。又、ホームページ更新、ブログの開設、9月度のJリーグ観戦等の支部会員の交流促進が広がる企画が併せて検討されており、準備にかかっています。

支部総会に参加を

関東支部

支部長 落合 博(高17回)
住所 横浜市戸塚区矢部町1029
電話 045(881)2866
総会日 平成25年11月9日
会場 ティ・ナイト大手町店

静岡支部

支部長 内野 稔(高23回)
住所 磐田市福田115
電話 053(58)2928
総会日 平成25年9月18日
会場 ホテル センチュリー静岡

掛川・菊川支部

支部長 大場 勝良(高7回)
住所 掛川市杉谷南1-16の4
電話 0537(21)7033
総会日 平成26年1月予定
会場 バレスホテル掛川

袋井支部

支部長 鈴木 計夫(高7回)
住所 袋井市陸町8の8
電話 0538(42)5029
総会日 平成26年7月下旬予定
会場 袋井市総合センター

磐田支部

支部長 青島 克樹(高14回)
住所 磐田市中崎4-11の11
電話 090(2610)1509
総会日 平成26年4月19日
会場 磐田グランドホテル

豊田支部

支部長 芥川 知孝(高20回)
住所 磐田市池田1288
電話 0538(35)2564
総会日 平成26年2月16日
会場 磐田市商工会豊田支所

西遠支部

支部長 村松 運(中20回)
住所 浜松市東区北島町556
電話 053(421)3721
総会日・会場 未定

東海支部

支部長 大橋 正隆(高8回)
住所 名古屋市中区
電話 052(972)7663
総会日・会場 未定

関西支部

支部長 大石 英機(高12回)
住所 奈良市朱雀2丁目1-7
電話 0742(71)7098
総会日 平成25年11月10日
会場 ホテルグランヴィア大阪(大崎ビル) バルベスランアネ

なごに、歳を重ねた後になつて気がつきます。この同窓会が、人との縁を作るプラットフォームになるように試行錯誤をしていきたいと思っています。



静岡県立磐田南高等学校 創立90周年記念事業報告



尾崎楠馬先生 開校式にて配布された記念写真帖より

■学校創立90周年記念式典

【日 時】平成24年11月14日
【会 場】磐田市民文化会館

開 式	後援会理事長
90周年記念事業実行委員長挨拶	校長
90周年記念式辞	来賓
来賓祝辞	同窓会長
祝辞と目録の贈呈	
生徒代表謝辞	
校歌斉唱	
閉 式	

■記念行事

「国際地学オリンピックを振り返って」
〈発表〉高63回 川島 崇志さん(東京大学在学)

■記念講演

「生命をとらえなおす一動的平衡の視点から」
〈講師〉福岡 伸一氏(青山学院大学教授 生物学)

閉 会

創立90周年 記念事業 御協力御礼

同窓会長 櫻井孝順

このたびは創立90周年記念事業に御賛同・御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。お蔭をもちまして、記念事業も滞りなく終了することができました。昨年3月には尾崎楠馬先生の頌徳之碑の移設事業、続いて記念誌・DVD、回想録の刊行、そして11月14日の記念式典など充実した内容となりました。これもひとえに同窓会会員各位の御協力の賜物です。

さて、母校磐田南高等学校は「質実剛健・真剣至誠・文武両道」の校訓の下に、見付中学からの伝統を受け継ぎ、次の10年に向けて新たな躍進を遂げるべく、今後にも有徳、有為な人材の育成に力を注いでいくことを目指しております。

創立90周年 記念式典の感想

生徒会長 中野泰斗

「文武両道・質実剛健・真剣至誠」を校訓に、伝統ある磐田南高校の創立90周年という記念すべき日に立ち会えたことに、私は大変嬉

しく思いました。式典には多くのご来賓の方々や同窓生の方々にお越しいただき、盛大に挙行することができました。

今回の90周年記念事業は、同窓会の皆さまを始め、多くのの方々のご支援によって行われたものです。また、私達在校生が今充実した学校生活をおくることのできるのも、同窓生のみならず、

ののおかげです。私たちはそのような皆さまからの温かいご支援に対し、感謝の気持ちを忘れず、今の学校生活に一生懸命に取り組もうと思ひます。今回の式典は、在校生と、卒業された方々のつながりを、改めて強く感じる場にもなりました。

磐田南高校は、十年後に百周年を迎えます。永遠に本校が素晴らしい学校であり続けるために、私達在校生は、後輩に良き伝統を伝えてゆこうと思ひます。



同窓会長より目録贈呈



記念式典講演 講師 福岡伸一氏

同窓会事業

①「尾崎先生頌徳之碑」移設事業

長年東門(旧正門)脇にあったが、正門に移設し、由来文も設置した。

②「回想録」第2号の刊行

旧制見付中学校16回生～高校4回生の回想録の刊行。

③90周年記念募金活動

12,501,000円(平成25年2月28日現在)

④21世紀の南高生を育てる 教育資金援助

尾崎教育振興基金の充実
(奨励事業・国際交流事業)



創立90周年を記念して東門(旧正門)から現正門に移設された「尾崎先生頌徳之碑」

創立90周年記念事業募金年次別結果報告

(単位:円)

年次	寄付金	年次	寄付金	年次	寄付金	年次	寄付金
中 3	15,000	高 5	300,000	高 26	125,000	高 47	10,000
中 4	10,000	高 6	320,000	高 27	310,000	高 48	55,000
中 5	35,000	高 7	395,000	高 28	175,000	高 49	50,000
中 8	30,000	高 8	365,000	高 29	190,000	高 50	35,000
中 9	70,000	高 9	350,000	高 30	60,000	高 51	50,000
中 10	5,000	高 10	300,000	高 31	180,000	高 52	85,000
中 11	50,000	高 11	235,000	高 32	125,000	高 53	5,000
中 12	60,000	高 12	390,000	高 33	30,000	高 54	55,000
中 13	35,000	高 13	380,000	高 34	130,000	高 55	35,000
中 14	170,000	高 14	295,000	高 35	195,000	高 56	55,000
中 15	105,000	高 15	470,000	高 36	30,000	高 57	50,000
中 16	50,000	高 16	155,000	高 37	25,000	高 58	50,000
中 17	125,000	高 17	505,000	高 38	35,000	高 59	70,000
中 18	125,000	高 18	380,000	高 39	70,000		
中 19	270,000	高 19	225,000	高 40	40,000		
中 20	215,000	高 20	240,000	高 41	95,000		
中 21	180,000	高 21	180,000	高 42	135,000		
高 1	395,000	高 22	300,000	高 43	95,000		
高 2	155,000	高 23	250,000	高 44	65,000		
高 3	216,000	高 24	375,000	高 45	25,000		
高 4	535,000	高 25	140,000	高 46	55,000		
						中 3～21	1,550,000
						高 1～30	8,711,000
						高 31～59	1,935,000
						特 別 寄 付	305,000
						合 計	12,501,000

創立90周年記念事業会計報告書

収入総額		13,334,046円		
支出総額		13,334,046円		
差引残額		0円		
◎収入の部	1 寄付金	12,501,000円	同窓会よりの賛助寄付金	
	2 記念誌・DVD	832,500円	同窓生への記念誌・DVD 売上	
	3 雑収入	546円	普通預金利息	
収入合計		13,334,046円		
◎支出の部	1 総務費	2,892,397円	事務用パソコン経費・趣意書印刷・発送費・臨時職員賃金・口座振替手数料等	
	2 回想録経費	637,824円	回想録原稿依頼送付・作成・封筒印刷代	
	3 尾崎校長頌徳之碑移設経費	2,016,623円	尾崎校長頌徳之碑移設経費・記念式典諸費	
	4 記念誌・DVD作成経費	949,685円	記念誌印刷・発送・DVD作成費	
	5 創立90周年記念行事への支出	3,500,000円	学校式典費用・記念誌作成費(生徒用)等	
	6 尾崎教育振興基金繰入れ	1,800,000円		
	7 予備金	1,537,517円		
支出合計		13,334,046円		

弁護士の将来像

高22回 鈴木銀治郎



プロフィール

事務所 集あすか法律事務所

パートナー弁護士

役職歴 経営法曹会議常任幹事

東京簡易裁判所調停委員

公益財団法人日本スペイン協会監事

昨夏、司法研修所同期の三十五周年の集いがありました。弁護士となって既に三十五年以上が経過しました。この間、一貫して企業法務と倒産法の分野の仕事に携わってきました。数年前、全国的な投資被害事件となった

K会社事件や七十万近い債権者となったS消費者金融事件の管財人として全国の弁護士や司法書士とお会いしてきました。

弁護士を取り巻く環境は近時激変しています。ロースクール制、弁護士数の増加など。こうしたことから若い世代が弁護士の将来像に不安を持たれているという話も時々聞きます。私は以前にも増して益々社会経済からの需要は高く、弁護士はこれに応じるべく一段と高度化していくことが求められていると考えます。

私がこの道に進み、その後も一つの目標としてきましたのは、見中三回卒の浅沼（旧姓水野）武先生です。浅沼先生は裁判官として多くの功績を上げられ、東京高裁長官代行を最後に定年退職され、その後弁護士となり東京労働委員会会長の要職に就かれました。私と母方の親戚であることから、良く知っていました。実際にお会いしたのは弁護士になってからです。初めてお会いした時、浅沼先生が「君たちから見ると神々の時代の人だろうね」と言われました。実は本当にその時

までそう思っていました。まさか見中の創立時の人々が現役でこの分野で活躍されているとは思いませんでした。その後お会いする都度様々なお話をいただきましたが、誠に有益なことが多かった。お亡くなりになる直前、某専門雑誌から都労委の審理を厳しく批判され、これに浅沼先生が大変憤慨されたというのを聞きました。事の真相はわかりませんが、浅沼先生の性格から難しい事件ほど夜遅くまで心血を注ぎ公正無視の態度で臨んでいたのではないかと考えられますが、その後まもなくして任期満了前にお亡くなりになりました。誠に残念でした。

今、私自身の任務として事務所内の若い弁護士を育てています。

私の事務所でも今年二名の弁護士を米国のロースクールへ留学に出しました。世界の俊英と競い合い、新しい分野を切り開いていただけるものと確信しているところです。

弁護士の仕事、あるいは期

卒業後30年の所感

高35回 馬淵昭彦



プロフィール

所属：東京大学医学系研究科人類遺伝学准教授

同窓生の皆様こんにちは。私は、日本の秘境百選の一つ桶ヶ谷沼に程近い小さな集落で生まれ育ち、向笠小学校、向陽中学校を経て磐田南高校に入学しました。小学校1クラス、中学校は2クラスでしたので高校では学校の大きさに圧倒され、また同じ中学校出身者は数える程しかおらず非常に心細かったのを覚えています。それもあって高校時代はなるべく多くの同級生と交流をしようと考へ、部活動も一番志望者が多かったテニス部を選びました。当時の部活動の練習は本当にきつへ、

夜遅い帰宅、翌日朝は自主練習というテニス漬けの高校時代でした。残念ながら才能に恵まれず一回戦負けで私の青春は終わっていました。高校時代は多少の不登校があったものの、幸運にも素晴らしい恩師、同級生に恵まれ楽しく充実した日々を送りました。

現在、大学で人類遺伝学分野の研究・教育に携わっております。大学卒業後10年弱は整形外科医として特に股関節外科を学びました。その後、股関節の疾患と遺伝との関係に興味を持ち、2000年に理化学研究所多型研究センターに研究員として採用され、それ以降遺伝子・ゲノム学研究に従事するようになりました。

私が現在所属する研究室は、日本で最も早く設立された人類遺伝学という名称を持つ研究室です。国際色豊かで台湾、マレーシア、ミャンマー等アジアを中心として多くの留学生も集まっています。ご存知の方も多いと思いますが、東京大学では濱田純一総長を中心に一部大学・経済界の賛同を得て大学教育のグローバル化を押し進めるため秋入学への移行を検討しました。その後、様々な学内外の教育・社会制度等の問題から、学事暦を早急かつ大幅には変更しないことになりました。私自身は、当初の5年以内を目処としたプ

ンでは中学・高校在学中の生徒さんへの進路システム変更の影響による無用な混乱は避けるべきであり、教育・人材養成の観点からはデメリットも大きいと考えておりました。ただ、社会・経済のグローバル化は進展することはあっても後戻りすることはありません。今そして未来の日本の社会と制度を国際社会に対応できるよう大学自身が変革することは必須でしょう。

遺伝学的には日本人は比較的多様性に富んでいます。また、Y染色体ハプログループではチベットのものと一部共通部分があるなど、独特かつ比較的古いと考えられる遺伝子を持ち続けています。遺伝学においては、多様性に富む集団は乏しい集団に比べ、さまざまな環境下で生き延びることができると考えられています。この多様性が、日本の南北に長く変化に富み、かつ時に猛威を振るう厳しい気象条件の影響に負けずに日本が繁栄を続けた原動力となっているのかもしれない。距離と時間の概念が短縮化し、かつインターネットに代表される情報化が進んだため、お互いが容易にコミュニケーションをとることがで

卒業生は今

待される分野は益々多くなり広がっていくものと思います。社会の進化スピードに伴い、その仕事の内容もより高度化し国際化していくことは避けられません。弁護士に求められるレベルは益々高くなっていくものと思います。

きる現代では、遺伝子自体のこれ以上の多様性には必要ないかもしれませんが、社会や制度の多様化・変革を行うことでグローバル化や国際競争といった様々な環境・状況への対応力をつけなければなりません。伝統を保持しつつグローバル化という新しい波に打ち勝てるよう、我々の社会システムを考える時期に来ているのだと思います。

最後に、在校生の皆さんへ。偉そうなことを書かせて頂きましたが、私自身は高校時代に思い描いていた道とずいぶんかけ離れた道に進んでしまいました。また、なぜこのような道に迷い込んだのかこれがお前のやりたいことなのかと、この年齢になっても苦悩しています。未来は皆さんが作るもの、我々はその下準備をしているに過ぎません。やりたいことがあるのならその道にぜひ進んでください。

「若者の活字離れ」と言われますが、新聞には、「読者からすれば、難しすぎて読まないだろうなあ」と感じる記事もあります。我々、現場の人間がすべき努力があるはずです。

初任地の岩手県では東日本大震災取材しました。山梨県には昨春秋に赴任し、9人が死亡した中央自動車道・笹子トンネルの天井板崩落事故を追っています。大ニュースの現場に立っているのは記者真利に尽きます。取材させていたたく、書かせていたたく、そんな謙虚な姿勢でペンを執り続けたいです。

読者のためにつづる

高56回 水野翔太



プロフィール
読売新聞甲府支局記者

参院選投票開票2日前の7月19日、勤務する甲府市のJR甲府駅前、行き交う人々に政治について街頭インタビューをしました。24歳フリーターの男性に声をかけると、男性は「政治に期待しているの、今回、初めて投票に行きます」と話しました。

期待の理由は「政権交代後、ニュースで株価や景気について知り、『政治は動かせるのだ』と実感したので」「男性はラジオで頻りにニュースを聴くそうです。報道が人の役に立っていると実感し、少し嬉しくなりました。一方で、男性は「活字は苦手。新聞は読まない」といいます。少し残念でもありました。

◇

記者の仕事に興味を持ったのは半年間の海外留学（遊んでばかり）から帰国した大学4年の夏。海外特派員記者である大学OBの講演を聴き、「色々な場所に行き、様々な事を学べる仕事では」と思ったのがきっかけです。「記者なんだから、元々読書好きなのでしょう」と周囲から尋ねられる時がありますが、とんでもない。磐南生だった頃も大学生の時も、冒頭の男性と同じで読書や新聞を読むのは得意と言えませんでした。

そのためでしょうか、活字に抵抗を感じる人の気持ちに分かる気がします。だからこそ、日々の仕事で最も意識するのは、分かりやすく、読みやすい文章を書くことです。専門用語を避け、漢語は違和感のない範囲で和語に直します。

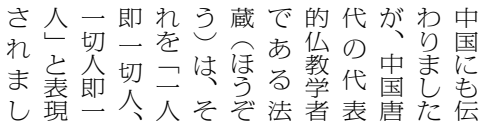
「若者の活字離れ」と言われますが、新聞には、「読者からすれば、難しすぎて読まないだろうなあ」と感じる記事もあります。我々、現場の人間がすべき努力があるはずです。

高3回 田中良昭

.....

そもそも私たちが「人間（にんげん）」といっているの

が成立し、発展していったのです。



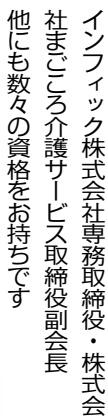
すなわち私たちの生活しているこの世間とは、そこに住む多くの人びとが、人の間を結びつける絆によって互に生かし生かされていることを示しているのです。

逆にいえば、この世は一人きりでは生きられないということなのです。「人」という字を見てごらん。ひととひとが支え合っている姿を示しているよ」というのは、いかにもこじつけのようですが、しかしいい得て妙といえましょ。

た。この言葉を直訳すれば、「二人の間は、あらゆる人と関わりを持っており、あらゆる人との関わりによって一人の人間が存在しうる」となりますが、私はこの言葉を、「私が努力を重ねることによって多くの人びとを幸福にすることができ、多くの人びとの努力のおかげで私も幸福に生きることができのだ」と受け止めています。

人生を豊かにするのは、自らの努力と他への感謝の心だと思えます。

高42回
大場勝仁



あったこんな言葉が目に残りました。「大切なもの、金でも商品でもサービスでもない。大切なのは信頼の絆である」意味を調べた後に接した絆の解釈は変化し、築いた信頼を壊せないからと縛られることもまた一面だなとこれはこれで納得しました。

警南を卒業して24年、今の私は介護事業の経営をしています。高齢者の暮らしぶりに触れ、そして最期の時まで支援するお仕事です。当社は、多くある介護サービスの中から訪問介護、小規模多機能型居宅介護などの在宅介護サービスを展開しています。在宅（家庭）では、高齢者

ご本人はもとよりご家族との関わりも多く、様々な方にお会いします。

自身の家庭から毎日通い、ご実家の両親の介護を続ける娘さん、働きながら夜勤もある勤務シフトのなかで工夫しながら介護をしている息子さん。いつ終わるともしれない中での介護は、時として苦しいものであるはずです。頭が下がります。なぜ、こんなにも苦勞しながら介護を続けられるのでしょうか。家族の絆でしょうか。

我々、介護事業者は、せめて、何ができるのかと考えながらサービス提供をしていきます。

してきた娘さんや息子さんがとても晴れやかな表情でヘルパー達と談笑しています。悔いのない介護ができた、親をしっかりと送ってあげられたと。

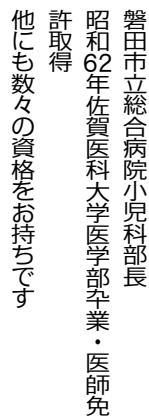
家族だから、と当然に介護の苦勞をも背負う。絆の語源に「縛られる」という意があるとして、その縛りによって苦勞に立ち向かえる力が湧くのではないかと、思います。

この原稿依頼によって、自分の仕事を見つめ直す機会を頂きました。譬南の先輩との絆とは、ありがたいものです。

あまたある仕事のなかで私は、介護という尊い仕事に出会いま

学んでみたいと

高33回 白井眞美



「高校生達に、今の仕事について話してみませんか?」と同級生の内山三賀子さんに声をかけられたのは卒業30年目の同窓会でした。今年1月と6月に、2年生対象に「小児科医になって学んできたこと」という演題名で講演をさせていただきました。私の拙い話に真剣に耳を傾け、感想を送ってくれた彼等に感謝しつつ、その内容をあらためて書き綴ってみます。

私は中学3年の夏、一つ年下の妹を結腸癌で亡くしました。それまで医療の仕事に就くなど考えたこともありませんでしたが、妹の側においても何もできなかった自分への歯がゆさや医療の現場で働く人たちへの漠然とした憧れから、医師を志すようになりました。普通科からの医学部進学は難関で、私が現役で医学部に合格したのはラッキー以外のなに

春に晴れて小児科研修医となりました。

研修医として初めて受け持った白血病の3才の女の子が、昔妹が亡くなった病院の小児科からの紹介であったのも運命を感じました。医者とは名ばかりで、結局その女の子も救うことができず泣きました。その後国立療養所天竜病院、榛原総合病院と転動した後、現在の私を本当の意味で育ててくれた病院が静岡県立こども病院のNICU（新生児未熟児センター）でした。

こども病院は正直とても大変な現場でした。1000gに満たない小さな赤ちゃん達から、生まれながらに重たい病を抱え短い命を終えていく先天異常の子達などを沢山受け持ちました。「どうしてこんなにつらい命で生まれてきたの?」の答えはなかったけれど、私が小児科医として励まされたのは、「それ

に「幸せだなあ」と思うのです。こどもも病院で最初に受け持った在胎28週の三つ子達は、一昨年成人式を迎えました。

こども病院から磐田病院に赴任し、既に16年がたちます。私は磐田にある唯一の総合病院の小児科医として、「いつでも私のところにおいで」という姿勢で地域のこども達のために、今後も働いていきたいと思っています。「白井先生、あのね…」と、外来や病棟で私を笑わせ、元気をくれるこども達に感謝しながら。。



小杉達先生に聞く H25・7・8

小杉達先生は、母校在任中に尾崎楠馬先生墓誌銘の拓本を刷り、昨年(平成24年)の創立90周年の時には、尾崎先生に関する諸資料を同窓会に寄贈されました。

(聞き手 橋本洋子)

墓誌銘の拓本について

―尾崎楠馬先生の墓誌銘の拓本はいつ刷りましたか。

小杉 南高に來た年だったから、昭和58年の秋でした。運動会の日だったから、南高からの音楽が風に乗ってお墓がある見性寺に聞こえてきましたので、それを聞きながら、2日間かかって20枚くらい刷りました。

―そのうちの1枚が、はぐま会館に掲げてあるのですね。刷ろうとした動機は何ですか。

小杉 鈴木不二夫校長(平成23年2月逝去)に頼まれたと思います。60周年記念(昭和57年)で、はぐま会館ができたので、飾りたかったのだと思います。

寄贈の資料について

―寄贈資料を先生が所有していた経緯を教えてください。

小杉 元静岡文化芸術大学教授の岩崎鐵志先生から、「磐田南高校のいろんな資料を持っているけど欲しいかね。あんたは、南高に勤めたことがあるよね」と声をかけられましたので、「(岩崎)先生が大金をはたいて

古本屋から入手したものだから、ただでいいんだけどわけにはいきません。先生が持つていけばいいではないですか」「私は浜松だから」「そういうものは、私が個人で所有するものではないと思います。学校が同窓会にあつてこそ役立つものですから」ということで預かり、同窓会にお話ししました。

当時、山下六機会長と何人かの同窓会役員が集まった場で話したところ、「じゃあ、100周年の時にでももらおうか」というくらいで、あまり乗り気ではないと感じました。

―それから、今があるのですね。その時快くもらってくれなかったのが、結果的に良かったのですか。

小杉 岩崎先生がせっかкуп買ったものなんですよ。自分に関係ない学校のものをね。それを由に浮かしちゃいかん。同窓会がすぐ受け取らないなら、全体を整理して分類しておこうと、全部に目を通して内容を把握して、同窓会だより31号に発表しました。

尾崎先生の学生時代からのノートや日記、勤務した各々校での交流を示す書簡、見中では卒業生からの手紙、さらに奥さん宛ての同僚や女学生からのたくさん手紙などの解説を始めました。

岩崎先生と

大橋さんの賜物

しかし、たくさんあります

新・尾崎楠馬ものがたり 見付中学開校の秘話



女学生から奥さん宛ての手紙



墓誌銘の拓本が飾ってあるはぐま会館で、毛筆の手紙に感じ入る小杉達先生

見て自分一人ではとても読み切れない。そこで、中19回卒業生であり、豊田町郷土を研究する会長の大橋雄司さんに頼みました。大橋さんは、全ての手紙を讀んで原稿用紙に書き写し、整理していただきました。

こうして、尾崎校長先生の人間性と見付中学開校の基礎を築いた姿が浮かび上がってきました。資料を買

女学校の先生をしていたようです。結婚して、東京で夫婦で先生をしていたことが手紙から窺えます。ところが、奥さんの体調が悪く、いことから、浜名湖の近くで療養するために、楠馬先生は浜松師範学校に転勤することにしたようです。そして、5年後に見付中学が開校するというので、本校に迎えられたようです。

毛筆の手紙は魅力的

士族の子女の雰囲気が残っているし、大正ロマンを感じます。毛筆の手紙は味があるから、パソコン万能的の今の生徒たちが見ても参考になると思います。

ぼくは、生徒と「読んでみよう」と、一枚の手紙をコピーして読んでみたところがありました。筆先からにじみ出る15、16歳の女性の心の内が垣間見えて魅力的でした。

はぐま祭での展示を

そこで、はぐま祭で展示したらどうですか、との思いで急いでケースを買って5月末に学校に持っていきました。

見付中学の生徒から楠馬先生宛てのものがあるが、それも巻紙の毛筆。見中学生は、卒業後も楠馬先生にいろいろ相談したり、お世話になっていたりようです。昔の生徒(先輩)から学ぶことが多いですね。

―寄贈者の方々の思いを聞かせていただき、教育的価値がよくわかりました。

『尾崎楠馬先生遺稿集』年譜より抜粋

- 明治44年(34歳) 7月31日 青山師範学校教諭に任ぜられる
- 大正2年(36歳) 10月5日 第一高等学校教授にして同郷の須藤伝次郎氏夫妻の媒酌により、旧鳥取藩出身宮川達夫長女と結婚
- 大正6年(40歳) 3月31日 浜松師範学校教諭に任ぜられる
- 大正11年(45歳) 2月20日 静岡県立見付中学校校長兼静岡県立見付中学校教諭に補せられる

回想録を読んで 在校生の感想

今に感謝、努め励まねば

まず当時の生活の厳しさなどがどれほどのものかを知った。生活する場所、学徒動員による学校休業など、明らかに今の僕たちよりも苦しい生活をしている。

勉強する余裕がないこともそうだし、精神的にも今の僕たちでは耐えられないような状況だったと思う。

でも、そのような社会の状況のせいで、昔の生徒は頭が悪かった、なんて聞いたことがない。確実に僕たちは戦時中よりも楽で裕福な生活をしていて、勉強する余裕がたっぷりある。

僕は、厳しい生活をしていった先輩方を越えられないと思う。これらの話を讀んで、先輩方に意識の高さで負けていると痛感したし、僕たちはもっとやらないうと、という気になった。この恵まれた状況に感謝し、置かれた立場を理解し、努め励まねば面目が立たないと思った。2年 野澤克希

身近だった「夏の記憶」僕は神明中学校出身なので、「夏の記憶」の話に強い印象を感じた。学徒動員、戦闘機での空襲が、自分の地域と言われてもなかなかピンとこなかった。

思い返してみると、中学校の周囲にはいくつか防空壕があった。自分が「死んでしまう」と本能で感じて逃げたり、恐怖さえも越えた感情、心理など、僕は到底理解できそうにない。他の回想録を讀んでも、今の自分の暮らしや日常とあま

りかけ離れすぎていて、正直なところ、実感などできなかった。時代が変わったのか、または僕が甘い考えであるのか、こういった体験をしたのはその当時の磐南(見中)生だけではない筈だ。

様々な苦しみや、時には理不尽も、全て乗り越えた先輩方がいて、歴史があるからには、僕も時代は違えど一生懸命に生きなければならなかった。磐南生である誇りと逞しさと、自信を持てるようになりたいと思う。2年 高木新太

今も昔も変わらない「しっかりと勉強したまえ」今私たちが通っている磐南と見付中学との違いにとっても驚きました。

当時は学校の周りの環境も全く違うものであったこと、大学受験の直前は空腹で、餅を食べたなんとか過ごしていたこと、機関車が空襲により停車してしまっただことなど。

戦時中、グラウンドで一時間以上びっしり敵と戦う実技を教え込まれた、という文を讀んで、私たちと同じ年代の当時の人は、本当に大変な思いをしていたのだと思いました。

しかし、「これからは英語が世界の共通語になると思うから、君たちはしっかりと勉強したまえ」という言葉に、今も昔も変わらない部分もあるのだと感じました。様々な時代を乗り越えた先輩達が築いてきた伝統ある磐南の生徒であることに誇りを持ち、これからの生活を過(すご)していきたいです。

2年 松村風香
関連記事 12・13頁へ

楠馬イズムとは

高知心の旅Ⅱ

平成25年4月20日(土)～22日(月)

尾崎楠馬先生の建学の精神につながる「考える村」を訪ね、村の創設者入交好保氏の哲学「自然の中に人間の生き方を考える」を学び、互いにその精神性を引き継ぐ意義と大切さについて交流する



元吉事務局長（左から3人目）の大歓迎を受けて



記念式典での大西さん（考える村ブログに掲載）

前回（平成16年4月）は、尾崎家の墓参りと、高知県教育委員会の表敬訪問でした。今回は、90周年記念式典に、高知から大西智予さんが来席してくれたことから、お招きを受けました。

4月20日（土）小雨夜雨
桂浜、坂本龍馬記念館、自由民権記念館（高知市）西鉄インはりまや橋泊
4月21日（日）晴
五台山展望台、竹林寺（高知市）ありがとう駅（南国市）船本楠吉先生頌徳碑、尾崎楠馬先生生家跡地（安芸市）大釜荘（香南市）考える村（芸西村）考える村考堂泊
4月22日（月）晴
県庁おもてなし課、本間

自然に学ぶこと

翠様宅、啄木父子の歌碑（高知市）

2回の訪問団長として

雨の空路を飛んで
建学の精神を忘れないように、何としても行かねばと思っていた。

初日、私は臨済宗妙心寺派主催の千鳥ヶ淵平和祈念法要大会を終えて夕方羽田より空路高知へ。出迎えてくれた大西さんの車で宿泊先のホテルに着き、陸路現地入りになり人と合流した。



尾崎楠馬先生は、3歳から母の実家に預けられ、叔父の船本楠吉先生の養育を受ける。濱口雄幸首相も楠吉先生の教え子の一人

清々しい高知

翌朝五台山からの展望は、空の青さと山の緑が相まって、清々しかった。濱口雄幸首相の銅像をみつけ、はぐま会館に掲げてある濱口首相から楠馬先生に宛てた手紙を思い出し、感慨にひたりながら記念写真を撮った。

考える村考堂で交流懇談
考える村へ着くと、「自然の中に人間の生き方を考える」と刻まれた碑文が、9年前と同じように私たちを迎えてくれた。

午後、理事の方々と2時間になり懇談し、大変有意義な時間であり、今回の目

的を果たすことが出来た。

県庁、本間さんのお宅へ

最終日は、高知県庁おもてなし課の黒石佑介主事と面談。それから、本間翠さん（楠馬先生の末妹の長男の妻）宅を訪ね、昼食をごちそうになった。寺尾禮二理事を交えて本間謙太郎さん（平成21年9月7日逝去）と楠馬先生を偲びながら歓談した。高知がより身近になり、心温かく帰郷した。

第19代同窓会長
高11回 大橋 忍

天地人三事一に帰す

坂本龍馬記念館や自由民権記念館等々を巡り、幕末・維新の高知の人々の凄腕力を改めて認識し、尾崎楠馬先生の高い理念、行動力等が、この歴史の流れの中で脈々と受け継がれてきた土佐人魂だと知りました。

交流を通して、皆さんが先人に学び、その心を未来に繋げていくと尽力されていることを実感しました。

また、一見偶然のような出会いも必然の糸に繋がれたものの様に思える旅でもありました。

高14回 富田淑子

金柑の実に思いを馳せ

磐田を発って6時間半初めて高知の地を踏み、改めて自分自身にとっての90周年集大成を感じた。

安芸第一小正門前の船本楠吉先生頌徳碑で、楠吉先生の孫の浩一郎さんと会い、



船本浩一郎さん90歳



尾崎楠馬先生生家跡地

尾崎先生生家跡地に向かった。畑になっている跡地には金柑の木があった。

楠馬先生の人間教育の原点はここにあり、との思いを馳せながら、実を7つ頂戴した。この感動と感謝を100周年につなげたい。

高8回 鈴木美智子

ご一行をお迎えして

なんと熱い方達だろうと大変驚きました。在学中にお世話になった先生ならともかく、大正時代の初代校長先生を偲んで、はるばる高知まで、それも橋本様に至っては12回目であるとお聞きし、更に驚かされました。

尾崎楠馬先生の

一貫した教育理念

開校時にはドカ中と一部の批判を浴びながらも、結果的に勤労教育が生徒達の人間形成に大きく役立ったこと、しかも20年余もの長きに亘り校長を務められた

ことに依り、多くの生徒達が一貫した理念の下に良い教育を受けられ果立って行き、後輩へ後輩へとその精神が受け継がれていったものと強く感じました。

と云ってしまえば簡単ですが、90年も継続することは並大抵のことではなく、やはり驚く他ありません。

社団法人考える村
事務局長 元吉康夫



左から歴史家・門脇謙久さん95歳、久保徹郎さん、元吉康夫事務局長、小路哲理事

私たちには使命がある

交流の後日勉強
皆様から、考える村訪問の馴初めや、尾崎楠馬先生の建学の精神などを聞かせていただき、後日、私なりに整理し考えてみました。

坂本龍馬さん

坂本龍馬さんは幕末にあって、当時誰も考え及ばなかった、日本国という発想を以って船中八策を策定し、日本の進む道を指し示しました。そして、自らはその中心に座することなく、

自由人として生きようと思いました。

入交好保さん

龍馬の生き方に感銘を受けた入交好保さんは、龍馬像を建立する為に県下青年に募金呼び掛け、青年達に自分たちで建てたという自信と、明日への希望を与え、労働運動の中では働く者の権利を確立しようとしていました。そして最後の仕事で、考える村の設立でした。

尾崎楠馬先生

同窓会HPの寺田伊勢男著「磐田人物往来」の一文を参照すると、「建学の精神は、教頭小田原勇先生と共に人の魂を養う教育をしようにと始まり、目指した所は勤労、鍛錬の労働教育であった（概要）」とありました。

労働教育と考える村

ここで、考える村の設立趣旨の「自然の中に人間の生き方を考える」と、「労働教育」は共に自然と対峙した考え方になるのではと思いました。

入交好保さんの口述

「自然」というものはよくできている。松の木に桜は咲きません。自分のもって生まれたものを、そのまま素直に生きている。自然の中に学ぶことがたくさんある。20世紀は科学の時代だった。21世紀は哲学が見直され、科学と哲学がニアミスする時代がくるだろう」

高橋みゆき著

『感動物語』より

入交さん、楠馬先生の

考えを伝える使命がある
奇しくもこの自然の中に学ぶことの大切さをお二人が時を超え、場所を隔てて唱えていた訳です。このお二人の想いをしっかりと受け継ぎ、考えを伝える使命

があると、交流会の後に想いました。

考える村企業委員 久保徹郎

磐田南高校へ繋げたい

突然の再会

本間翠様宅へ一足先にお伺いしましたら、翠さんが私の両親をはじめ、小学校時代からの私のことを知っており、突然の再会・ご縁で大変驚きました。



寺尾禮二理事、本間翠さん86歳

考える村総会で報告

5月12日、平成25年度の考える村理事会・総会が開催されました。入交 陸理事長の新しい取り組みの中で、磐田南高校同窓会との交流会報告や連携方針等が発表されました。

磐田南高校へ繋げたい

考える村関係者は、創設者入交さんの精神が、多くの方々に、特に磐田南高校の皆様へ繋がる事を願っています。

考える村理事 寺尾禮二

作家・門田隆将さんに

安芸第一小出身のノンフィクション作家・門田隆将さんに、尾崎先生のことを書いてほしいと頼み、資料を渡しておきました。

高知市 安岡富士子

タイミングよく門田さんが、8月15日にアクトシティ浜松大ホールで講演されましたので、楽屋に訪ね高知の話題に弾みました。

高14回 橋本洋子

特別座談会

《出席者（敬称略）》

○十七代 同窓会長

江間 金作

○二十三代 南高校長

伊藤 律夫

○十八代 同窓会長

鈴木 源市

○編集委員長（司会進行）

高橋耕太郎

○二十一代 同窓会長

櫻井 孝順

○編集委員

伊藤 英明

――尾崎校長と小田原教頭の威厳と風格――



出席者のみなさん

テーマ

建学の精神と 校訓を語る

大正十一年に開校した母校は、偉大な教育者初代校長尾崎楠馬先生が、何もない磐田の原っぱから劳作教育を実践、特異の校風を築き、以来昨年九十周年を迎えた。今回これを好機に次のテーマについて、歴代の同窓会長、櫻井同窓会長、初の母校出身の校長伊藤律夫先生を交え、座談会を開催した。

（平成二十五年六月二十七日 学校応接室にて）

尾崎校長の教育方針、 人間教育とは

――最初に江間さん、尾崎校長の教育方針とはどんなものだったのでしょうか。



江間 金作さん

江間 昭和三十五年から昭和四十五年まで評議員をやっていた。その当時は大先輩の多くが生存されていて、藤沢先生・萩野先生とか山下貢さんとかその他の一回生の皆さんと話す機会が多かった。その中で印象に残っているのは、尾崎校長は「また郷里に戻り、町を発展させられる様な人材にならなさい」と言われた事を先輩の方から伺っている。尾崎校長の教育方針

は皆さんが今まで同窓会だより等でご存知の事がほとんどですので省略しますが、伝えられている事は間違いありませんね。その様な事を尾崎校長は願っていたものだと思います。

少し付け加えますが、同窓会長を平成六年から平成十年まで竹内さんの後をやらせていただきました。その時に小田原先生の顕彰碑を造りました。発案は私ではなく小田原先生に薫陶を受けられた見中一回から七回の皆さんが「小田原山に碑を造ってくれ」との願いからであった。式典の日には平成八年八月十八日、出席の皆さんは涙を流して喜んでくれたのを見て、「やって良かったなあ」と本当に嬉しく思った。又、はぐま会館の建設委員長をやった時は一番きつかったが、昭和五十八年十月に完成した。今やらないと出来ないという気持ちでやったが、一

致協力があり出来たものである。

校訓については聞いた話ですが校長室に先生の教育信念である「質実剛健」「文武両道」の額が掲げられていたそう。しかし、あえてこれが校訓だとは言わなかったし、制定をしなかった。

これは先生の性分であり、行動で示すという考えだったのでしよう。

――源市先生、尾崎校長は将来を見据えた人間教育をしました。その具体的な事は。



鈴木 源市さん

鈴木 尾崎校長の将来を見据えた教育とは、とにかく人間教育をしなければならぬという信念で開校時の

様子を書かれた遺稿集などを見て、八十周年記念の時には、校舎移転の問題がからみ、移転により磐南の校風が切れてしまうのではと心配した。「当時の生徒や今の校長先生に『建学の精神』を伝えていきたい」との気持ちが強かった。

校長の式辞やPTAだより第一号の記事とかに教育の方向性が、具体的に示されている。

そして、校舎の耐震工事をやれば十年は良いとの県よりの話で外付け工事の方法で実施した。

「学校の校訓は創立時からの教育理念だから、安易に変わるのはいかしくない。これでは維持継続はできない」との気持ちが強かった。

「八十周年には、この校訓と先輩達の実績を表に出して皆さんにわかってもらい、伝えて行かなければならない」という思いも含めて回想録を作った。

先の人間教育とは、見中二回の方が書いた新聞記事に載ったものであるが「名のある人物ではなく一隅を照らす人間になれ、百姓なら日本一の百姓に、左官なら日本一の左官を目指せ」とは尾崎校長の最初の卒業式での話であった。

そこから未来を目指し学校教育は展開していった。単に劳作教育で土方の仕事をさせていたのではなく、そのものの中に本質がある。「小さな仕事でも真剣に取り組み心をこめる事で自分を磨く事ができるのだ」と言っている。ドカ中と呼ばれたが、それらに耐えられるよう先生方もよく支えられたとの思いが強い。

高校生時代の思い出は

――櫻井会長の時代では、どんな思い出がありますか。



櫻井 孝順さん

櫻井 私は昭和四十年卒業の高十七回生です。体育科では今日ご出席の鈴木源市先生や、伊藤菊造先生がご在籍の頃です。やはり体育科の先生が熱心に学校の校訓を大切にしながら指導しておられ、特に夏の暑い日に小田原山の草刈りなどが思い出に残っています。私は直接尾崎校長や小田原先生には指導を得られなかったのですが、その薫陶を受けた方々から直接指導を受ける事ができたのは嬉しかったです。

昨年九十周年行事に携わらせていただいたわけですが、今年関東支部は六十周年となり、記念誌発行の原稿依頼がありました。ちょうど伊藤新七郎校長の時、私が在校中に遺稿集が出たということがわかり驚いたわけです。私は僧侶の道という事で駒沢大学に進み寮に入っただけです。今回、関東支部にその原稿を送ったわけですが、見中三回生の酒井得元先生がその学生寮の寮監をやっています。在寮二年間まったく高校時代と同じ様な教育を受けた事を思い出しました。三回生です。尾崎校長と一緒にもってこを担いだ事があったわけですね。見中八回生の私の父の頃は、卒業記念にペンキ塗りで校舎をきれいにしたと聞いております。やはり伝統というものは作られてゆくもの、語り継いでゆくものだと思います。

鈴木源市会長の時に副会長を務めさせてもらい、少しでも同窓会のことを知ろうと思いついて、また諸先輩からお話を聞く中でやはり、「これをしっかり受け止め、後に残すべく努力していかなければならない」と思いました。私達の高校時代は坂道の途中にある尾崎校長の碑を見て、その奥に古い図書館、正門への道は非常に尊いものだと思います。また最初に鉄筋コンクリート校舎ができ、初めて入っ

労作教育による校風の確立

伊藤 律夫校長

伊藤 律夫校長は母校での教諭時代に労作教育を実践したとか。

伊藤 律夫校長は母校での教諭時代に労作教育を実践したとか。

伊藤 律夫校長は母校での教諭時代に労作教育を実践したとか。

教員になってからの話です。尾崎先生の言行が、自分の中に藤沢先生から注ぎ込まれたという感じを強くもっています。

それとあと二つの出会いは『磐南の道程』という本が昭和四十五年、私が高校二年の時に作られました。その実行委員会の一人が中学の先輩でしたので、苦勞話をたくさん聞きました。実際、小田原先生のご自宅まで訪ねて行ってインタビューまでしてあります。この本を購入して中を読み、グラウンドを作る、プールや防風堤を作るといった精神が、この当時の（今六十歳になった位の）生徒がルーツを探るといって、高三の生徒が素晴らしい事を行ったのです。

そして、六十周年記念誌を作る時、編集委員の端々を頼りました。また、昭和五十五年ですが、学校精神として「愛知求道」が掲げられ、これが数年間続きました。一方、昭和五十七年に新たにテニスコートを作ることに「待ってました」とばかりテニス部員と教員が炎天下一緒に師弟同行の土掘り作業を行いました。この時テニス部だけでしたが強く労作教育というのを、生徒達に伝えた記憶があります。平成二十二年に再び母校に赴任して参りまして九十周年という年が既に迫っていましたので、何とか自分の知っている限りの、建学の時代の事を生徒達に伝えたいと思って、集会の都度、「開校式は中泉農学校の講堂を、勉強は旧見付学校を借りてやり、大正十一年七月見付

中学（校舎のみ）ができれば生徒達が重い木の机と椅子を夏の暑い日に、あの坂道を運んだ。こうして徐々に学校が造られてきた。防風堤などには先輩の汗が染み込んでいたのだ」と話してきました。プールは新しくなりましたが、私の時もすごく深いプールでした。あれを造った時から「質実剛健」は事ある毎に生徒に話をしてきました。尾崎先生の領徳の碑の移設の時も最初に三年生に聞いたところ、十名程度しか誰のものは知らなかった。この「創立から二十年間校長を務められた尾崎楠馬先生の領徳の碑だよ」という所から始めました。それまでは、このような話を聞く機会が少なかったと思います。卒業して何人から「九十周年にいられて良かった」とあるいは「質実剛健」とはどんなものかと感想を書いてくる生徒がいたのは有り難かったなと思っています。

語り継いでいかなければ消えてしまうものだから精神だけは語り継いでいきたいと考えています。

質実剛健と文武両道

出して信頼関係を作った。これらは遺稿集にその話がよく出てくる。『磐南の道程』の中にも出ており、人間味溢れた人だった。

お考えは、清掃作業でも宗教的なものを感じさせる。精神的な鋭いものを持っていたように思う。「小さな事であっても、それに打ち込んで努力することで得られる物がある」とのお言葉は印象に残る。櫻井 先生は宗教心を一人の禅僧の室にあって、とことん修行されていますね。座禅するとか経を読むことではなく精神的な支えとして体得されています。

鈴木 「真剣至誠」の話ですが、これは小田原先生との関わりがあると思います。開講式式辞において、本校は人材の養成を教育のねらいとし、特異な校風を確立して此の目的を達成するために勤労作業を奨励して質実剛健の精神を培うことが示されている。

また、学校だより第一号には信頼のおけるしっかりした人物を育てあげるために、現在の生活の全てを上級学校入学などの準備教育のみに注ぐことなく、人格の基礎を完成するという最も重要な目的を看過してはならない。さらに、身体全体、精神全体を働かせて自ら習得する体験以外に、活きた本当の教育はない。どんな些細なことでも精力を一事に集中しさえすれば、其処に徹底した成果を得ることが示されている。このことは真剣に誠実に実生活

に對峙すべきことを示唆しているように理解できるのではないかな。

一校風を築くうえで、小田原校長の存在は大きかったですね。

江間 尾崎・小田原先生は旧制土浦中学が出合いでその後、見中の尾崎校長は教頭を誰にするかとの点で、「哲学・教育方針に総て合っている先生は小田原先生以外にない」という事になった。当時、今の北朝鮮にいらして、「三顧の礼」をもって迎え入れた有名な話がある。最初は「俺は朝鮮で骨を埋める」と言われて断られたそう。その度量たるや持つて生まれた人間性は、尾崎先生の「土佐っぽ」、小田原先生の「薩摩っぽ」です。濱口雄幸首相も土佐出身で同じ塾で机を並べたという話もある。昔でいえば寺小屋だったんだろうね。その時代から付き合っていたのは坂本龍馬ではないが、続いているんですね。

小田原校長と小田原山

「この教育方針で成果が出なかったなら、ここに俺を埋めろ」と始めた事なんです。その結果は、成果が上がり良かったです。命をかけた仕事・教育だったんですよ。

江間 小田原校長の顕彰碑は、薫陶を受けた中一・中七の人達が「小田原山に造ってくれ」と強い要望があり、言う通りにしました。

今の生徒達には卒業してからも南高に残るいろいろな歴史や良き伝統を身に付けたことを、将来忘れないように成長して欲しいですね。

一校風を築くうえで、小田原校長の存在は大きかったですね。

鈴木 小田原山の話ですが、六メートルの高さの堤防工事は、辛い作業だったそうです。この学校のグラウンドで働かせてもらった者として全国どこを見ても、このような防風堤がある学校なんて無いと思いますよ。何も無い草ぼうぼうの吹きさらしの台地に学校を作らなければならず、遠州の空っ風に打ち勝つためには防風堤が必要だと、小田原校長のお考えで尾崎校長にも相談されただろうが、造ったという事です。

真剣至誠

校風をつくる過程で記録の中にもあるけど、「感化する」という言葉が出てくるんです。感化とは教えた事をそのまま鵜呑みにするんじゃないって、やはり感じて気持ちの中で、この防風堤のこの場所での授業をやっているという事が、やはり非常に落ち着けるという気持ち

が持てた。空っ風から守ってくれたこの環境は「代えがたいありがたさ」がある。先輩達はすごい事をやったものだと感心する。

櫻井 校訓の「真剣至誠」の問題も今回でいるわけですが、「校訓碑を見ながら指導を受けた生徒が、それぞれ羽ばたいているものだから歴史としては、正しく伝えていかなければならないし、それはモットーとして掲げて頂きたい」と思っています。

当時の導入経緯を知る先生の話を聞く中に、「やはり色々な事があるかと思いますが、今それを体験して体得した人達が育っているという事実を思うとそれはそれなりに大事にしてもらいたい」と思います。

校訓「真剣至誠」は、私達の学んだ時代には、今の校訓である「真剣至誠」は、なかったわけですが、校訓についてお考えはいかがですか。

鈴木 見中の草創期、尾崎校長と共に教職にあつた化学の武末知一先生の著書「労作教育の實踐（昭和十一年発行）」がある。その中に、当時の生徒が勤労作業について書いた作文に「真剣至誠」の言葉が何人かの生徒の文中にある。教頭は、「至誠天に通ず」という言葉をよく使って訓話をしていたという。小田原先生が、生徒に向かって言った言葉なんですね。

「言葉ではいいあらわせない感動を与える人でした。私の一生の間であの人ほど感動を与えた人はありませんね」(この言葉は『さむらい教師伝』より引用)

校長は二項目の校訓を言っているんですが、それを裏打ちする「真剣至誠」は大きな意味がある。「文武両道」「質実剛健」の二つを支えるというもので、「生き方として魂を入れる」とそのように私は受け止めているんです。だから校長の二訓の一角に入れるという事ではなく、指導として実際に実践した自分自身の方針だったと思います。

江間 だげと先輩の方も私もですが、その事を知らない人が多い。だから二つだけを確認しているわけで、後で「真剣至誠」を入れたという事だからその経緯をはっきりしなければならぬし、そうしなければならぬわけではないです。

何れにしても校訓は学校で校長先生が、ためらう事なく生徒に教えられる様にならなければ哀しい事である。それには同窓会として「真剣至誠」が後になって追加されたものだと言う経緯を評議委員会で説明をしてゆく必要がある。

鈴木 ずっと教育方針の経過の中で三項目が伝えられてきたわけで、「あやふやになる」という事は好ましくない。今の三訓の通りにやっていかなければならない」と思っています。

― 本日は貴重なお話をありがとうございました。この座談会をはずみに次の100周年に向けて同窓の絆を一層深められる様願っています。

〔解説〕
校訓
「真剣至誠」
の経緯

昭和五十五年頃、当時の校長の発議により当時既に見中・南校の校訓とされていた「質実剛健」「文武両道」に「真剣至誠」を新たに校訓として加えたい、ということが提案され、現在の三つの校訓になった。それ故、見中の卒業生、南校の一回から三十一回(昭和五十四年三月卒業)あたりまでの卒業生の方々は、『真剣至誠』が校訓だという事は知らないわけです。

心に校訓を

生徒会長 24 H R

松井勇仁

質実剛健・真剣至誠・文武両道、この3つの言葉は磐南の校訓だ。中学3年の受験の時には必死に覚えたものだったが、磐南に入学した後は、日々の生活の忙しさからすっかり頭の中から抜けてしまっていた。今回改めてこの校訓について考えてみたいと思う。

まず、3つの言葉の意味を調べてみた。質実剛健とは、中身が充実して飾り気がなく心身ともに強くたくましいさま、真剣至誠は、真面目できわめて誠実なこと、文武両道は、文事と武事、学芸と武芸、その両道に努め、秀でていることである。改めて校訓について調べ考えてみると、この3つの言葉は本当にいい言葉であると思う。しかしどのくら



いの磐南生がこの校訓の3つの言葉をしっかりと意識して学校生活を送っているだろうか。黒板の上にも、生徒手帳にも記されているが、ちゃんと意識していないと気にも止まらないようにも思われる。もっと磐南生が校訓を意識できるような機会があったらいいと思う。校訓を意識していけるようになったら、よりよい生活が送れるようになるはずだ。周りの友人や先輩方を見ていると、授業や課題などの勉学にも、運動部・文化部問わずどの部活動でも真剣に一生懸命に取り組む様子が見られ、誠実にたくましく生活することができていると思う。しかし意識してやっているのと、意識せずにやっているのでは、得られるものが違ってくる。意識してやっていたら、うまくいった時の達成感は大きなものになるし、効率も良く物事を進めることが出来ると思う。校訓が私たちに与えてくれるものは大きいのだ。

高校生活もあつという間に半分が過ぎてしまった。残りの半分は高校3年間の中でも大事な時間となる。しっかりと心に校訓の3つの言葉を刻み、過ごしたいと思う。

特別寄稿 磐田市域の戦災 高2回 高田岩男

昨年(H24)7月に発行されたわが同窓会編集になる『回想録第2号』を読んでみて、特徴的なのは見中19回生から22回(高1)生までの寄稿者32人中11人以上が、恐ろしかった空襲体験に言及していることである。なかでも1945

(S20)年5月19日の爆撃にふれたものが、圧倒的に多い。他の回になると「磐田には爆弾が一発落ちたものの戦禍を蒙ることはなかった。死の恐怖の実感はない」との記述もあり、同じ戦争の体験でもその認識には、大きな隔たりのあることを感じる。

私は高2回(中学23回に相当)生なので、戦禍をまともに受けた一人と想っている。私自身見付国民学校時代の同級生3名を、同じ見付町内に落ちた爆弾で失っており、私が生活した北井上(現二番町)では、身近に見付国民学校生徒と引率の女性教師合わせて29名が一発の爆弾で亡くなるという大惨事が起こっている。見中の一年上級(22回)生でも、この日動員先で3名(別の日を加えると計4名)が爆死し、同級(23回)生にもこの日危うく命を拾った友人が居て、その恐怖を別の紙上に書いている。

磐田市域でどれほどの被害があったのか、空襲被害を一覧表化してみたのでご覧に入れます。戦争について考えるよすがとなれば幸いである。

戦災を語るとき、民間に死傷者の出た場合のみ採り

磐田市域の戦災

年	月	日	場	所	死亡	負傷	全焼壊	半焼壊	その他	備	考	出典
1944 (S19)	11	5	磐田上空通過							B29 1機、1式戦(隼) 8機	出動	④
	11	23	豊田							B29 1機	上空通過	⑤
	11	24	磐田							B29 編隊	東京方面へ、1式戦出動	④
	11	27	西貝、西之島							焼夷弾		①
	11	30	西貝、西之島							焼夷弾	上の27日と同一か	④
	12	3	磐田							B29 編隊	東京方面へ	④
	12	13	磐田							B29 80機	名古屋方面へ、浜松にも投弾	④
	12	22	磐田							B29 25機以上通過	1機に損害、1式戦1機落	④
	12	23	豊田							B29 1機通過		⑤
	12	27	御前崎方面							B29 編隊	東京方面へ	④
	1	3	駒場				被害不詳			B29 焼夷弾		④
1945 (S20)	1	4	中野戸・勾坂中之郷				8			B29 焼夷弾		⑤
	1	9	広瀬 掛下		1	1				B29 爆弾、高射砲弾破片によるとも		②
	1	14	見付二番町・住吉・富士見町		23	2	4	22		B29 60機	迎撃出動	①③④
	1	19	磐田・浜松							B29 2機に3式戦5機で攻撃、遁走		④
	1	23	浅羽上空							B29 1機攻撃により白煙、高度下げる		④
	1	27	磐田・浜松							B29 40機を迎撃、2式重戦(屠龍)1機鮫島に墜落		④
	2	15	中泉栄町		23	不明	130	14		海軍単座戦1機	天竜川に墜落	①④⑦
	2	16	明野飛行隊		1	5	1式戦7、97戦			グラマン数十機	銃爆撃、死傷は軍関係	④⑧
	2	17	明野飛行隊							TBM(艦爆)1機	爆撃	⑧
	2	19	袖浦				戸数不明			焼夷弾		④
	3	12	明野飛行隊				兵舎・学生舎等			B29 焼夷弾		④⑧
	3	30	明野飛行隊							97戦 12機	飛来、特攻出撃	⑧
	4	30	浜松		11	不明				B29 爆弾、浜松で被災		①
	5	19	見付・中泉・稗原・天竜・万正寺・浜松		98	72	198	256		B29 爆弾		①
			福田町		41	数名	30世帯			B29 爆弾		⑥
			下万能・笹原島		22					B29 爆弾、東海道松並木も被災		⑤
	6	18	森本・長森・立野				森本上数棟			B29 焼夷弾		⑤
	4~6	月	吉貫地・惣兵衛下新田							焼夷弾 1回		②
	7	1	広瀬・松之木島		1	1				P51の銃撃		②
	7	24	見付・中泉・西貝・鮫島		7	1		4	列車	グラマン 銃爆撃、鮫島漁船海岸銃撃		①⑨
	7	29	天竜川鉄橋より弁天島鉄橋に至る東海道本線沿							艦砲攻撃、長森に被弾破片		⑤
			惣兵衛下新田							観測機からの攻撃か		②
	8	2	見付・北浦				1	5	稲牛1	焼夷弾		①
合	計				228	82以上	371以上	301以上				

出典 ①『磐田市誌』下巻 ②『豊岡村百話』 ③『磐南文化』38号 ④『戦禍のなかの青春』斉藤昭日記 ⑤『豊田町誌』 ⑥『福田町の歴史』 ⑦『磐田地方の太平洋戦争』『流』12号 ⑧『磐南文化』34号 近藤さくえ 稿 ⑨『21世紀に伝えたい戦争体験』佐藤博幸 稿『磐田昔がたり』P.92に1943(S18)年3月18日、福田中嶋海岸を低空で東から西へ飛行する米軍機があったと記している。(補)215 中泉栄町の備考欄はB29焼夷弾

あけられる傾向にあるが、本来は警報の出た日時、飛来した敵機の機種・数、軍側や工場等の損害も含めて全て記録すべきでしょう。それが果たされてこそ豊かな想像力をもって、戦禍の全貌を不十分ながらも把握できるはずである。その見方からすれば掲出の表は甚だ不十分なので、皆さんのご指摘をいただいて完全を期したいと願っている。

また、これを機に見中19回生の記念誌『戦禍のなかの青春』同じく21回生の『あ紅の血は燃ゆる』を是非手に取ってごらんいただきたい。この『回想録第2号』

にも中19回の佐藤清司氏・鈴木直之氏らが、熱き想いを述べて居られる。かつての日常生活の身近にあった戦争と、先輩たちに想いを馳せながら、ご自身の人生を重ね合わせて考えていただけなら幸いである。

日本人だけでも310万人、アジアの人々も2000万人が死んだとい

う15年戦争、身近で多くの愛する友人、家族たちが亡くなった。平和がいかに大切か、戦争時代に逆もどりにしないように、気付いた時は遅かったということにならないように、どうしたら平和を守れるか、政治の動きに敏感であって欲しいと願うものである。

故郷の周辺をたずねて

資料：磐田市教育委員会 文化財課
取材：鈴木昭次（高12回）

— 御厨の歴史と鎌田神明宮 —



鎌田御厨

鎌田御厨は、自磐地系御厨として、延長年中（九二二～九三二）より禰宜の度会為保氏が豊受太神宮領として相伝してきたと鎌倉初期、源頼朝に伝えている。吾妻鏡が、史料の伝える具体的な開発事業としては、応徳年中（一一〇八四～八七）に御厨の住人が独力で溝堰を掘り通したことが惣検校村主永吉の言葉として伝えられており、一一世紀当時さかんに開発が行われた御厨である。

御厨古墳群

御厨古墳群は平成一三年三月二六日に、国の史跡に指定され、松林山古墳を始めとする旧御厨村（新貝・鎌田）にある五基の古墳の総称です。

名称（形）	大きさ（m）	発見された遺物
松林山古墳（前方後円墳）	全長 107	三角縁神獣鏡・銅・埴輪など
高根山古墳（円墳）	直径 52	埴輪
御厨山古墳（前方後円墳）	全長 35	刀・斧・土器
秋葉山古墳（円墳）	直径 50	土器
稲荷山古墳（前方後円墳）	全長 47	土器

特に「松林山古墳」は四世紀後半に造られた大和王朝と結びつきの強い豪族の墓と推定されます。



松林山古墳・高根山古墳（手前）と連城寺古墳群（奥の山）

御厨の社 鎌田神明宮

鎌田神明宮は、白鳳二年（六五二）に創建された式内社で旧御厨村一七ヶ村の総鎮守で五穀豊穰・幼児虫封じの神として信仰され、拝殿には鎌や鍬など農具が奉納されている。

御厨とは伊勢神宮の神饌を整えるために設けられた神領地、荘園のこと。「台所」の敬語表現である。

神明宮の起源は、天武天皇の時代に伊勢神宮の外宮の祭神である豊受姫大神が、農具の鎌と鍬を持参してこの地にお渡りになったことにはじまります。

神明宮の神殿は、伊勢神宮の建築様式で、伊勢神宮が二〇年毎に對し、六〇年毎に造り替えし、御遷宮を行うことが慣例となっています。

由緒正しき式内社 祭神

豊受姫大神
迹迹藝之命
天兒屋根命
天之太玉命
創立年代
天武天皇御宇
白鳳二年（六五二）
例祭日
十月第三週の土、日

境内面積
一〇、五四二㎡
建物面積
神 殿 二五、四二㎡
社務所 二二、五八八㎡
境内社
天照皇太神宮
船魂大神
塩金神社
伊雑宮
青麻大神
合社（後御殿）
八幡社
天桶神社
天磐戸社
稲荷社
神明中学校・兎山公園の一部

宮司
袴田孝子
（高44回）
等



鎌田神明宮神殿

神明中学校

所在地 磐田市鎌田
規模 二二六二の七四
生徒数 三五五人
校訓 自主・融和・勤勉
開校式 昭和二十四年三月十二日

本校は遠州地方の古墳を代表する松林山古墳に隣接し、由緒ある神明宮の照葉樹林に囲まれ、自然や歴史的環境に恵まれている。

遠州三大学校の一つ「坊中学校」が設置された地域で教育熱心です。

昭和二十三年に創立されて以来八七〇余の卒業生を出し現在に至っております。

「福祉活動」が本校の特色の一つです。

神明アクティブタイムと名付けた奉仕的活動を実践しています。

夫々活動は次第に地域に根付き、さらに生徒個々の自主的な奉仕活動にまで育ちつつあり「福祉の神明」を目指しています。



神明中学校

医王寺と 坊中学校



鎌田山医王寺

坊中学校

坊中学校は、明治八年（一八七五）四月十二日に磐田市域で最初に落成した木造洋風小学校です。明治五年（一八七二）十月に御厨村に開設した。第四四区郷学所を受けついだ形で新築されました。新校舎の規模は二階建てで玄関部分だけが三階建ての当時としては大変めずらしいペンキ塗の校舎でした。

明治8年坊中学校
五等授業生任命書



同校は生徒会や福祉委員などが中心となり、学校生活や地域の話題を掲載した「神明タイムズ」を毎日発行している。

これらの努力は高く評価され、一昨年は全国学校新聞コンクールで、内閣総理大臣賞を受賞、全国一の学校新聞となりました。

尚神明中学校の校歌作詞者は尾崎桐馬初代校長である。

戦国時代には武田軍による兵火を受けたが徳川家康によって伽藍の修復が図られ金剛院と称され、明治八年に現在の名称に改められた。

書院の北から客殿の南にかけて広がる庭園は市の名勝地に指定されている。境内東寄りには、遠州の三大学校といわれた「坊中学校」跡地がある。



坊中学校

学校を創設したことは、実に感慨深いものがあります。



鎌田神明宮例祭・山車

鎌田山医王寺
当山は行基菩薩によって開山されたと伝えられる。行基菩薩が当地を訪れたの地に薬師如来の靈驗ありと、山内の名木を用い一刀三礼のもとに敬刻された。薬師瑠璃光如来を本尊として安置している。

弘仁年間（八一〇～八二二）嵯峨天皇は、当山の薬師如来御尊像の御靈驗に感応せられ勅命にて七堂伽藍を建立し真言宗根本の道場となしたもう。

当時の山様は広大な境内に本堂・金堂・講堂・五重の塔・三重の塔・鐘樓堂・仁王門三十六ヶ坊の末寺などが配置されていた。

坊中学校の建設費用は見付学校の四、八五四円に比べて、五、七八五円という多額ですが資金は全て医王寺住職の松村淳高の寄付によるものでした。

淳高は、第四四区郷を開設した伊藤淳高の高弟で淳高の意志を継いで一個人の篤志によって洋風近代小



明治20年坊中学校
尋常科第一学年修成証

昨年、前34号に続き、今回はお寄せ下さいました見中23回生・高2回、高4回生の皆様の思い出の一部を抜粋掲載し、熱い思いをお届けいたします。前回は43名、今回42名、計85名の皆様の全文は、「回想録第2号」で貴重な宝として刊行しております。今後100周年に向けて高5回生からの第3号が発刊できますようご協力をお願い申し上げます。

見中23回生・高2回生

「嵐ヶ丘」の想い出

高校2回 青島正司

当時の「見付中学」は男女共学校になり楽しい思い出が澤山出来ました。初代校長尾崎先生のお力で集められた図書館係に入れて頂き私の本の結び付きが始まりました。現在家にも1万冊以上の蔵書が在りますが、このころからの縁かと思っています。「心の友達」とも思っています。

残念。只動員迄まだ少々時間が残っている者もいる。その間諸君は、本分を全うしてほしい。それは学ぶことだ」と云われ、「涙までは海人も暮るる時雨かな」と古人の句をくり返して口をつぐまれた。

津波の思い出

高校2回 横井時輝

私は昭和19年、見付中学に入学したが、この年の暮津波の怖さに遭遇した。その頃はまさに戦争たけなわで、週3回は授業がなく、農家の勤勞奉仕に駆り出された。誰かが「地震じゃないか？」と叫んだ。太田川の水が猛烈な勢いで海に流れ、川底がほとんど見えそうな状態であった。これがある東南海地震である。

旧制中学から新制高校へ

高校2回 高田若男

同一の学校に居た生徒が2年続けて卒業生に向かい、在校生を代表して送辞を述べ、3年目に答辞を読んで卒業するという、珍事にめぐりあわせたのが私である。理解しがたい方も多からうと思うので、旧制中学校より新制高校への移行過程を表にしてみた。私は昭和19年4月旧制の県立見付中学校に入学した。終戦時は中学2年生であった。

僕等純真な軍国少年

高校2回 鈴木丈太郎

或る朝、春の風に見舞われて激しい風雨の為自転車通学を止め、バスに乗り遅れた生徒に、M先生は、「貴様達の様なものは社会人の迷惑になる。国家の為にならないぞ」と一喝し平手打ちのビンタをくれました。「僕も乗りました」と立ち上り計8人程教壇の前に横並びとなりました。更に無断でバス通学をしない宣誓書を提出することになりました。通学方法の変更がこんなに厳しいものとは知りませんでした。

海人も暮るる

高校2回 鈴木良弘

動員派遣されることになり、壮行会が、全校生集合して行われたが、その席での、校長訓示を御聞きした時であった。「諸君を勤勞動員で遠方へ行かせることになったが、本意ではない。……」

学校とは

高校2回 大庭千秋

戦後名古屋の明倫中学から見付中学に転入し、新制高校の磐田南高に編入した。何かしら違和感のあった軍国教育から解放され、民主教育へと学制の大変革期を身をもって体験した。必修科目以外は選択科目から選び、時間割を作った。これは大学で時間割を作るとき大いに助かった。その……

学校時代の思い出

高校3回 梅林友哉

下阿多古村で生まれ、昭和20年4月に入学、下宿生活が始まりました。朝ご飯はスイートンを頂き白ごはんの弁当を作ってもらい、空腹にたえられず、部屋で食べてしまい、カラの弁当箱を持って登校しました。私は今年80になり、雨の日以外は毎日10キロ程度の、早足で歩くことにこころがけております。昨年9月から四国88ヶ所のお遍路の旅をはじめました。

学校時代の思い出

高校3回 松本善雄

見中に入学した時は戦時中でしたが英米の言語であっても、英語が必修科目



勤勞奉仕作業

学校時代の思い出

高校4回 市川 宏

運動場の囲いの土手には桜が多く植えられ春には花が見事だった。磐田駅前の広場には粗末なバラック建ての店が数多く建ち雑貨物を売っていた。私は天竜川駅から汽車通いだだったが当時は進駐軍の列車が優先らしく私達日本人の乗る列車は、2・3時間遅れる事が毎日のようにありダイヤは全く機能していなかった。

旧制最後の見付中学生

として入学して

高校4回 埋田昇二

わたしたちがびくびくしたのは、上級生たちが大会で先生方とくに「校長先生の戦争責任を問う」という決議が採択され、決議文を県に送ったことであった。3年生の時、戦争放棄、主権在民の日本国憲法を解説した文部省発行の『新しい憲法の話』が副読本として配られ、平和と民主主義の新しい時代の息吹を感じをもって学んだ。

男女共学第1期生

高校4回 大石 孝雄

磐田南高校1年に進学の際、男女共学が実施され、隣りの見付高女（現磐田北高）から数十名の女子の編入と新制中学からの入学もあり卒業時には、同期生は300名に膨れ上がった。突然共学になったこともあり、お互いかなりきこちなく、今の生徒のように自由に会話もなかったように記憶している。

秋田で一人

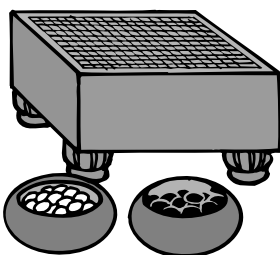
高校4回 大石 雅美

当時の磐田南高の変遷は激しいものがあった。昭和24年春、磐田北高からの女学生が転入し2学期制、週休2日制のモデル校：金曜の帰りは映画をみて帰る。と

見中・磐南高と私

高校3回 田中良昭

当時は体育の伊藤菊造先生が指導する陸上競技部の



学校時代の思い出

高校4回 細田重剛

見中に入学して間もなく運動場の西3分の1を畠にしてさつまいもを作りました。

私は見中2年のころ囲碁を覚え今も楽しんでいますが、現在の磐南の囲碁部は最強のようですね。磐南の勉強・運動・部活が大活躍のようでもありますの発展を祈っています。

2度の入校

高校4回 福田京一

入試に合格。顧みれば初代校長尾崎楠馬先生が残されたという質実剛健の遺風が漂っており、「黙って働け」という凡そ学校らしくないモットーが受け継がれていたのも、決して反動やアナクロニズムではなく、今となっては浴びた身として、良かったと感じている。

学校時代・人生訓

高校4回 鈴木計夫

中学入学と同時にサッカー部（蹴球部）に入った私は、1年生から正式試合に出ていた。運動場も西側の土手も、皆の労働作業によるものであったこと等々を聞かされ、努力の重みを常に感じる学校生活であった。当時私達を教え導いて下さった忘れ難い多くの先生方、特に中村末吉先生は、数学を哲学として分り易く教えて下さった。

男女共学1期生

高校4回 鈴木寛次

我々男子卒業生のお大半は学校が設立されて以来唯16年間在学し、その内4年間を最下級生として上級生から抜かれた経験を持つ仲間達であります。

思い出

高校4回 鈴木 滋

高校時代はどっぶり美術

故伊藤菊造先生を始め、体育関係の諸先生方、校長先生等の御努力、それに答えた先輩方、同期生諸氏の日夜を分かたぬ御精進と錬磨により、全国高校総体陸上大会男子総合で優勝の偉業を達せられ、全国に、陸上磐田南高等学校ありと知られ、磐田駅に凱旋されて、磐田南高等学校の校歌が高らかに斉唱されました。

蹴球からサッカーへ

高校4回 八神英典

蹴球部の先輩でもある、見中16回に加藤芳朗先生が赴任されて顧問になられ、3年の担任でもあって、先生の背中を見て入部した。蹴球靴は貴重なもので近くの先輩から譲って戴いた靴

々にを馳せてⅡ

高校3年生

入学式から6ヶ月
高校3回 飯田 弘治

日本が太平洋に敗れた原因について、アメリカの某学者は「多くの要因があるがその一つに、日本は将来日本の国を背負う優秀な大學生を戦場に送り、死亡させた。これで敗戦はいうまでもなく日本の将来は暗い」と書いた論文を読んだ事がある。4月の入学式から終戦までの6ヶ月間、私達は明治維新以来の大変革の中にいて、学問の重要性を痛感した。

母校に勤めて

高校3回 飯田 孝

校訓碑を建設するにあたり、いつ頃から校訓があったか諸先輩のところを訪ね歩いたがよく分らなかった。いくつかの事例から校訓の源流は初代校長尾崎馬先生の心と身体を鍛える教育の考え方、それを実践された教頭の小田原勇先生にあった。その教育観はまさに「質実剛健・真剣至誠・文武両道」であるといつてから平成元年に制定し、石碑が建設された。

在学当時の思い出

高校3回 石井 進

担任の黒沢先生が生物部の担当だった事もあり、クラブ活動は生物部に所属した。研究課題は中々決まらなかったが「浜名湖のプランクトンの生態」を級友3人で取り組む事になり、夏から冬、月1回夜間に弁天島まで出かけた。ボートのオールを遭ぐ度に夜光虫等のプランクトンが蛍光色に光り驚愕したことが今でも脳裏に浮かぶ。



科学展 前列左から大石清先生、埋田準一先生、森彬先生

在校6年3回生

高校3回 柏木 榛夫

南高3回生は、6年間の在校期間は、見付中学校へ入学、磐田第一高等学校、磐田南高等学校と校名が変った。

八十路の我々が後輩諸君に言いたいのは、「頭でっかちになるな」世の中は知識万能ではない。知力、体力、気力の総合力だ。「報恩の念」を忘れずに、人は支え合って存在する。部活動は最大の効果だ。

回顧部活動

高校3回 織田 武

2年生の時、3年生の松下文一兄より、部長を務める様に伝えられました。部長を任せられた以上は思い、化学準備室の、暗い試薬棚から試薬を総て外に出し整理、レッテル不良は書き換えを行う。休み時間の合間、昼休み、放課後は殆んど化学教室にて過していました。担任の都築渉先生、埋田準一先生、黒澤美房先生等、なつかしく思い出されました。

高校の思い出

高校3回 北野 昭雄

1年の1学期の終り頃遅刻して担任の山下先生に職員室に呼出されました。先生は、「君は15回か」と静かに云はれましたので不思議に思い「まだ上がいいますか?」とお聞きしますと先生は「いる水野が17回だ」と(註・水野君はクラスで一番の優等生)彼のお蔭で山下先生の説教を受け無かったと云う思い出があります。不思議なことに2学期は2人共無遅刻でした。念の為!!

学校時代の思ひ出

高校3回 宮内 吉治

私は昭和20年9月横浜市私立本牧中学校から旧制見付中学校へ転校しました。担任は黒沢先生で課外活動は生物部に属し種々と地域に出かけ植物採集を行った事などが思ひ出されます。当時の教科書は配布された日本史などは天皇制の事や日本神話の記述が黒墨で塗りつぶされていたのが強く印象に残っております。

学校時代の思ひ出

高校3回 後藤 桂一

太平洋戦争の末期、1945年4月見付中学へ入学した。門前の桜並木の淡い花びらの色が目に浮ぶ。アルファベットと英語の発音に中学生という世界を感じていた。一方、米爆撃機B29などの空襲が激化し、毎日「殺される危険」が迫っていた。

青春の思い出

混乱期の6年間

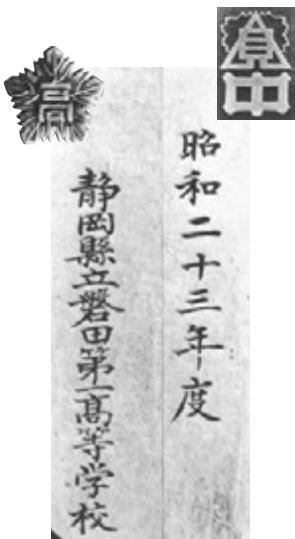
高校3回 鈴木 英夫

8月15日終戦の詔勅を聴いた時、空襲がなくなる安堵感と前途への不安感で一杯だった。インフレ、物資不足、食糧難に校庭は甘藷畑に変貌、豚を飼育し空腹を抱え授業を受けた。見中から南高までの6年間、日本はGHQの統治下主権のない国家で民主主義国家への改革がドラスティックに進められた。

大変革期に

高校3回 菅田 貴

昭和22年、学制改革により単線型の六・三・三制が定められた。翌23年、旧制県立見付中学校は県立磐田第一高等学校へと脱皮した。私は高校1年生に移行し、21年見付中学者は県立磐田第一高等学校併設中学校の3年生となった。校章は遠州はぐまの葉を图案化されたものが採用された。



高校第一回の校名 (磐田第一高等学校)

黄金時代で、1年先輩の短距離のエース大橋敏宏氏を中心に、2度の全国大会制覇をなしとげ、大いに校風を輝かせました。

現在は、再び駒大に戻って総長職にあります。見中、磐田南高での学恩に、深く感謝を致しております。

大南高より東京へ

高校3回 鈴木 久尋

友人にも恵まれ充実した高校生活。クラブ活動は演劇とグライダー。大学でも演劇部に加わり、俳優の他小説、脚本を書き、演出の道へ。以後、石原裕次郎、高倉健、吉永小百合など大勢のスター達と仕事をした。高校時代の諸先生の教えに感謝する。

平和日本の黎明期の磐田南高

高校3回 野村 泰敏

GHQの占領が軌道に乗りに出た矢継ぎ早に自由主義化、民主主義化が求められるようになった教育界も六三制と男女共学(磐田では4回生から)が実施された。昼休みに校門の土手にたむろして通るかかるジープの米兵に驚かされた英語で勇敢な生徒が「Give me chocolate」と話しかけたのもこの頃の出来事であった。

卒業して60年

高校4回 新井 清作

我々高校4回生は、創立90周年の記念の年に卒業60年を過ぎた。その間私は行政(磐田市役所)に36年勤務した。もうそろそろ「いい加減」の感覚に目覚め行政も経済もみんな、境界の感覚を心得て物ごとを判断し行動する必要があるように感じられるのである。

いったことが走馬灯のように浮び上ってきます。

いつかの同窓会誌に磐田南高同窓会生の、住所全国分布図があった。秋田県1名、何俺一人かと驚いた。

校歌を口にする

高校4回 大場 豊

小田原山を見下ろすように成長した防風堤の松の木々を見ていると「見中学校」が口をひいて出てきます。「霊峰富士に朝日照りそい」で始まり、「若き我等にみなぎる力」で終わる3番までを歌うと、何故か若がえったような気持ちになります。当時のことを思い出します。

高4回生の学生とは

高校4回 金澤 成光

私は下級生のいない時代が4年間。その間は上級生にご指導を戴きました。私はおかげで「気は長く心は丸く、腹たてず」の性格になり現在に至っているのではないかと自負しています。学校生活で思い出される記憶は、体育祭・水泳・テニス・サッカー・マラソン等々各種大会。泥にまみれた若きエネルギーの爆発でした。

人生を豊かに

高校4回 壁屋 さよ子

高校時代に「時事問題」という教科があり、2年か3年の時にこの授業を選択しました。成績は5段階評価での最高の「5」と評価されました。とても嬉しく、今も忘れません。「時事問題」の教科が、ずっと私の生活を支え、すべての面で人生を豊かに楽しくしてくれたと感謝しています。

学校時代の思ひ出

高校4回 栗田 瑞夫

終戦の翌年の昭和21年4月、旧制中学最後となった

部に。浜松、名古屋、静岡、東京の展覧会。伊藤隆史君と豊浜東横須賀まで自転車美術館。河口先生宅にて静物画人物画、35才のおばさんに裸婦をお願いして高2の時には、全校マラソン7位に、地学の屋外活動では貝化石の中から化石を発見した事。

部には、浜松、名古屋、静岡、東京の展覧会。伊藤隆史君と豊浜東横須賀まで自転車美術館。河口先生宅にて静物画人物画、35才のおばさんに裸婦をお願いして高2の時には、全校マラソン7位に、地学の屋外活動では貝化石の中から化石を発見した事。

戦後の歩み

高校4回 鷹野 泰弘

校舎は旧陸軍129部隊のお古校舎。進駐軍のアメリカ兵がやって来て英語の授業のお手伝い、こわい思いも吹っとなった。チマタでは、リンゴの唄が花ざかり。生物の授業は黒沢先生。アトロピンはドーコーをあける作用アリと聞いて仲のいいO・S君と「ドーコーチパチパアトロピン」60年以上たっても忘れない。

なつかしい

高校4回 鈴木 學

敗戦の翌年、昭和21年4月待望の見中に入学。戦闘帽に脚絆、軍隊から払い下げの防毒マスク用5角形の靴で満開の桜を仰ぎ見ながら校門を潜った。校舎は129部隊から移設のバラック。窓にはガラスが1枚も嵌っておらず金網をビニールで覆い風を遮るだけの教室。



を磨いては枕元へ置いて寝た。練習には、地下足袋など1週間とたたずむ得ずハダシで数少ないボールを追った。

私達の時代の職員室は多種多様の諸先生で苦楽混交であった。化学の授業質疑で「気体を取り上げられ」ひひは気体ですか。と質問したら「そんな事は答えられない。教えればお前と同じレベルになってしまうから駄目だ」との回答に教室全体が大笑いに包まれた事も、楽しい一幕であった。

学校時代の思ひ出

高校4回 安富 隆

私達の時代の職員室は多種多様の諸先生で苦楽混交であった。化学の授業質疑で「気体を取り上げられ」ひひは気体ですか。と質問したら「そんな事は答えられない。教えればお前と同じレベルになってしまうから駄目だ」との回答に教室全体が大笑いに包まれた事も、楽しい一幕であった。



「傘寿を記念して」高4回卒業生 同級会 平成 25 年 8 月 9 日

はぐま祭を終えて

生徒会長 3年 中野泰斗

今年のはぐま祭は、「刻」をテーマに二日間盛大に開催されました。テーマに込められた願いのように、磐南生全員が最高の思い出を残そうと、部展やクラス展などに一生懸命取り組みました。

生徒会本部も、はぐま祭を成功させようと、今年からの新企画に挑戦しました。新企画を実現するために、企画書を何度も練り直したり、多くの方と議論を繰り返したりと時間がかかり、大変ではありましたが、しかし、その努力のおかげで、「風流人会」の復活が成し遂げられました。

はぐま祭を含め、この一年間、私は多くの方に支えられてきたと感じています。本部役員の人数が少なかつたので、仕事が忙しい



磐田南高校に入学して

1年 近藤優奈

磐田南高校に入学して新しい友人と出会い新鮮で楽しい日々を送る中で、私は自分がとても恵まれた環境で生活しているのだということを実感するようになりました。

クラスメートは皆仲が良く、穏やかで協力的です。また、学習意欲が高く授業中も真剣に取り組んでいる人ばかりなので、落ち着いて学習に集中でき、お互いを高め合えていると思います。

授業は中学の時と比べると複雑で難しくなりましたが、先生方が興味深い話を交えて解説してくださるので「もっと知りたい」という気持ちが湧いてきます。演習の機会が豊富に設けられているため知識の定着が早く、自然と応用力も高められてきました。分からない問題がある時に一緒に考える友達や、親身になって教えてくださる先生方の存在が大変心強いです。

部活動は弦楽合奏部に入部し、ヴァイオリンを始めました。学期の持ち方や音の出し方など、最初はおぼつかないのですが、先輩方が一つ一つ優しく丁寧に教えてくださり少しずつ慣れてきました。そのおかげで一年生のみで合奏に挑戦できるようになり、益々たのしくなってきました。先輩方の合奏はとても音色が美しく惹きつけられるので、私も早くそのよ

うな演奏ができるように頑張りたいと思います。

はぐま祭を初めて体験し、学校全体の盛り上がりや圧迫感を感じました。先輩方のアイデアに溢れたHR展は外観も催しの内容も質が高く、来年の企画へ向けて来場者を魅了するためのヒントを多く得ることができました。クラスの団結が深まり、個々の能力も存分に発揮できる重要な二日間だと思います。今から楽しみです。

これからの三年間で「真の磐南生」となるように、広い視野と深い思考力を持ち目標に向かってまっすぐに進んでいきたいです。

マウンテンビュー留学生受け入れ

平成25年3月21日から31日まで第11回訪問団25名（＋引率5名）がアメリカ・カリフォルニア州にある姉妹校マウンテンビュー高校を訪問した。以下は帰ってきた生徒の感想文よりの抜粋である。

しあわせ

3年 秋山瑠貴

1日1日がとても充実していて、訪れた場所はすべてが印象深いものでした。それでもやはり私にとって一番の思い出はホストファミリーと過ごした時間です。一緒に水族館や遊園地に訪



国に誇りを持つことができるとなりました。

海への世界

3年 名倉 良

今回の旅を通じて日本の良さを再確認することもできた。例えば、アメリカに滞在しているとき、トイレがものすごく汚くてびっくりした。ここでも、日本企業のおかげで、日本企業のTOOTOやINAXの技術のすごさを知ることができた。私たちが普段日本で普通だと思っていることは、外国では、普通ではなく、日本という国は素晴らしい国であると感じた。

今回の旅は私にとって、根本的な考え方を変えるほどの人生にとって大きな影響を与えるものだった。もし、参加しようかどうか迷っている人がいるならぜひ参加することを勧める。私は、英語というものの重要性和日本という国の偉大さを再確認することができたからだ。

この研修旅行でお世話になった、先生、ホストファミリー、MV高校の生徒、そして私の両親に感謝の気持ちを伝えたいと思う。貴重な体験を本当にありがとうございました。



マウンテンビュー再訪記

高48回 山本政和

私は、第二回（平成七年）の訪問団で訪問して以来、約二十二年間ホストファミリーとの文通を続けていました。この夏再び訪問したい旨を手紙で伝えたと、快く受け入れてくれました。SFC空港で、迎えに来てくれていたホストの両親（BobとRuth）と念願の再会を果たし、hugをして喜び合いました。今回は三泊四日のホームステイでしたが、感謝感激の毎日でした。特にホストのRichが運転するセスナ機でのSFC周辺の空からの観光は素晴らしいものでした。また、Ruthが当時の写真だけでなく、日本の文化を紹介したチケットアセンブリーを使用した私の書道の作品まできれいに取っておいてくれたことには感激しました。最後には、BobとRuth、Richと再会を約束するhugをして別れました。素晴らしいアメリカの家族と出会えて本当に幸せです。今後も文通を続け、数年後また必ず会いに行きたいと思っています。



大学合格状況

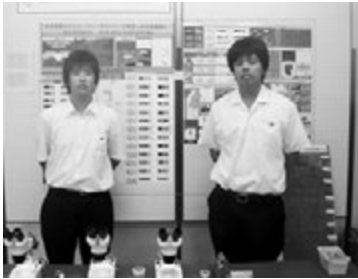
(数字は過年度卒を含む合格者延べ数)

国立大学	人数
北海道	3
東北	7
茨城	1
筑波	1
埼玉	1
千葉	5
お茶の水女子	1
東京	2
東京外国語	2
東京学芸	1
東京農工	2
一橋	1
横浜国立	1
富山	1
金沢	3
福井	1
山梨	1
信州	4
岐阜	2
静岡	40
浜松医科	5
愛知教育	2
名古屋	6
名古屋工業	3
三重	2
滋賀	1
京都	8
大阪	3
大阪教育	1
神戸	1
広島	3
九州	1
大分	1
国立大学計	117
公立大学	人数
首都大学東京	3
山梨県立	1
都留文科	3
神奈川県立保健福祉	1
横浜市立	1
静岡県立	3
静岡文化芸術	2
愛知県立	1
名古屋市立	2
京都府立	1
大阪府立	1
公立大学計	19
主要私立大学	人数
自治医科	2
青山学院	12
慶應義塾	13
芝浦工業	22
上智	5
中央	22
東京理科	21
日本	13
法政	18
明治	14
明治学	10
立教	13
早稲田	19
常葉	39
南山	16
同志社	32
立命館	57
関西	16
関西学	11

在校生の活躍

地学部

●第37回全国高等学校総合文化祭
長崎大会自然科学部門
文化庁長官賞
西尾拓哉、森 敬太、
鈴木 慧、加茂 朗
…「静岡県磐田市太田川河口で発見された砂礫層は津波堆積物か？」のポスター発表が、全国高等学校総合文化祭自然科学部門において、文化庁長官賞を受賞しました。
ポスター発表では36件の発表があり、文化庁長官賞は文部科学大臣賞に次ぐ第2席にあたるものです。「太田川河口で発見された砂礫層が津波堆積物であることを地道に検証した結果が評価され、部員一同喜んでいる」(顧問青島先生談)



水球部

●全国高校総体体育大会「未来をつなぐ北部九州総体」
(福岡市 福岡総合プール)
磐田南高校 8-11 山形工業高校
…本校、善戦するも惜敗。8月17日、福岡県福岡市の福岡県総合プールで、水球が開催された。本校は6年ぶりの全国大会出場だったが、25回出場の伝統校の山形工業高校に8-11で惜敗した。
●県高校総体水球(磐田南高校)
優勝
磐田南高校 15-3 磐田西高校
磐田南高校 17-2 掛川西高校
磐田南高校 7-6 袋井商業高校(延長Vゴール)
●第60回東海高等学校総合体育大会水泳競技
(三重県営鈴鹿スポーツガーデン水泳場)
優勝
予選トーナメント
磐田南高校 22-2 岐阜農林高校
決勝リーグ
磐田南高校 8-7 大垣東高校
磐田南高校 5-4 四日市中央工業高校
磐田南高校 10-7 稲生高校
…14年ぶり5回目の優勝6年ぶり8回目の全国総体出場



ビジュアル部

●第37回全国高等学校総合文化祭
(長崎市民会館 他3会場)
平野 杏沙「おしどり姉妹」、
川島 珠未「勝利の水しぶき」、
山田 修平「どや顔」
…以上の作品で出場した。



陸上部

●東海高校総体(三重県伊勢)
山本 拓未(男子棒高跳)出場、海老名宏亮(男子やり投げ)出場
●静岡県選手権
戸倉 未稀(女子棒高跳)3位 3m20
●東海選手権
戸倉 未稀(女子棒高跳)15位 3m00
●全国高等学校陸上競技選抜大会
戸倉 未稀(女子棒高跳)予選 3m30(決勝進出ならず)



戸倉さん



山本君



海老名君

野球部

●春季西部地区大会
1回戦
磐田南高校 10-11 三ヶ日高校(延長10回)
●磐田市内大会 優勝
磐田南高校 7-6 磐田農業高校
磐田南高校 2-1 磐田東高校
●2013全国高校野球選手権大会静岡大会
磐田南高校 3-12 磐田東高校



剣道部

●静岡県高等学校総合体育大会
剣道競技大会(静岡県武道館)
男子団体の部 第8位
大場 浩資、増田 達希、
足立 稜太、平野 裕貴、
平野 翔太、杉田 光
…各々が力を出し、チーム一丸となって勝ち取った。



女子テニス部

●高校総体県大会
女子団体ベスト8
…私達女子テニス部は、全員が自分の力を発揮して一つでも多く勝ち上がることを目標としてがんばっています。



人・出会い・感動……そして発見



袋井駅前 TEL.(0538)43-1212
比那 純 (高15回)

ISO9001/ISO14001認証取得



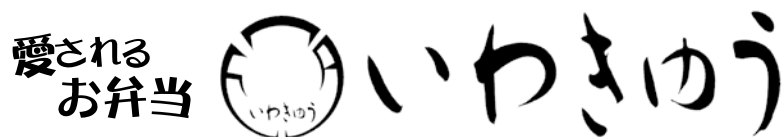
取締役社長 石川 大造 (高12回)

磐田市今之浦5丁目1番地1
TEL.0538-36-0021(代)
<http://www.ishikawa-cnst.co.jp>

地域に密着した医療を目指します
内科・小児科 **木佐森医院**
院長 木佐森正樹 (高25回)

〒438-0077 磐田市国府台55-1
TEL.0538-32-2555

往診応談 禁煙治療(保険可)



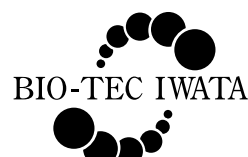
鷹野 靖 (高15回)

〒438-0814 磐田市気子島961
TEL 0538-36-9261 FAX 0538-37-3572

処方せん受付 **キヨレオピン** **サハリス****国府台薬局**

磐田市国府台94-3 TEL 35-2175
鈴木 敬三 (高9回) 鈴木麻里奈 (高38回)

“人と地球の健康に貢献する”

**磐田化学工業株式会社**

本社 〒438-0078 静岡県磐田市中泉3069番地 TEL (0538) 35-5100(代)



THE FOREST
Country Club
ザ・フォレストC.C

変化に富んだ3コース(天竜・橘・一宮)27ホールズが魅力
コンペ・プライベートにご利用を!!

コース 〒437-0227 静岡県周智郡森町橘576-3
TEL.0538-85-4141(代) FAX.0538-85-4758



応援します あなたの笑顔

磐田信用金庫

〒438-0078 磐田市中泉578番地1
TEL.0538-32-5110・FAX.0538-34-8021
<http://www.iwashin.co.jp/>

レンタル 建設仮設材レンタル**人材 人材紹介・派遣サービス****請負 クサビ式足場請負****機械 仮設材清掃機販売****株式会社 サイト**

代表取締役 大庭 義信 (高20回)

本社 浜松市西区伊左地町2790-1 ☎(053)485-4126(代)

東遠営業所 掛川市大坂6369 ☎(0537)72-4129

人材事業部 ☎ **0120-452-310**<http://www.your-site.co.jp>**磐田脳神経外科病院**

脳ドック検診受付けは随時

院長 金子 的実 (高21回)

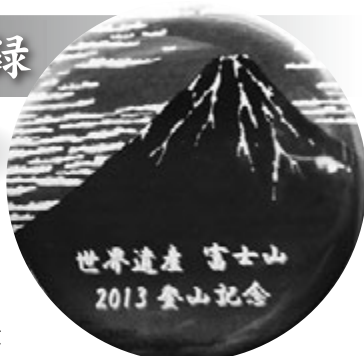
〒438-0086 静岡県磐田市見付1766番地の1
TEL (0538)34-1111 FAX (0538)32-1441

<http://www.iwatanoge.com>**祝 世界文化遺産登録**

日本の宝

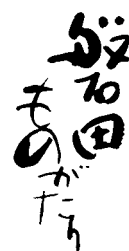
母校の校歌

霊峰富士に 朝日照りそひ
ほのぼの晴るる 四方の彩雲



和の心 贈ります

かしゆう
菓子勇本店



6代目店主 山田 佳幸 (高28回)

磐田市中泉坂上町2988 TEL・FAX **0538-32-3340**

NAC ナックフィーディング株式会社

本社・工場〒438-0002 静岡県磐田市大久保117-3 TEL.(0538)38-2666[代表]

<http://www.nacweb.co.jp>

代表取締役社長 深見 康弘 (高15回)

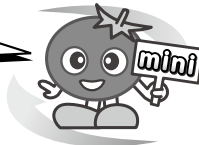
多目的 電気乾燥庫

ドラッピーmini

新登場

超小型でも
大型サイズと同じ性能!

「干し野菜や
ドライフルーツづくりが
手軽にできます。」
「お弁当や飲み物・食材の
保温にも便利です。」



タテ484×ヨコ325×奥380mm

静岡製機株式会社 <http://www.shizuoka-seiki.co.jp/>
営業本部/〒437-1121 静岡県袋井市諸井1300 TEL (0538) 23-2822

原田和義 税理士事務所

税理士 原田 和義 (高20回)

静岡県袋井市国本2493-7
TEL&FAX 0538-43-2462

地球環境にやさしく、60年以上安心して
快適に住み続けられる住まいの提供

セキスイハイム東海

浜松市中区板屋町111-2 (アクトタワー25階) 〒430-7725
TEL:053-453-4560 FAX:053-453-4537
ホームページアドレス <http://www.816t.jp>



さわやかな環境をクリエイト

磐南浄化槽株式会社

代表取締役社長
木戸 智弘 (高34回)

磐田市下岡田358-2 ☎36-0051 FAX 37-6622

TK TANI KO 株式会社 タニコー



あなたの大切な人を救う緊急救助用



高33回 水谷 眞啓 高33回 青山 光男 (旧姓 金原)

磐田市南平松5番地 TEL 0538-67-1880 (代) FAX 0538-67-1881
mizutanim@taniko.co.jp <http://www.taniko.co.jp>

ブランドリサイクル

PickUP

浜松宮竹店・浜松西伊場店
磐田店・掛川店・古着バザール宮竹店

株式会社 ピックアップジャパン

金・ブランド買取専門店

KINBERRY キンバリー

浜松高林店・浜松向宿店
静岡SBS通り店
藤枝インター店・静岡草薙店

本部 磐田市今之浦3-4-2
URL: <http://www.pickup-japan.com>

長尾 仁 税理士事務所

税理士 長尾 仁 (高20回)

〒438-0086 磐田市見付3719-1
TEL.0538-35-9221 FAX.0538-32-8735

ネジ

小物部品・締結部品・
精密ネジ部品

ISO9001 認証取得
ISO14001

株式会社 マルイチ

代表取締役会長 安間 信義 (高7回)

代表取締役社長 安間 浩彦 (高33回)

取締役 松島 孝久 (高17回)

本社 〒430-0898 浜松市南区瓜内町540
TEL (053) 441-4684 (代) FAX (053) 441-3452

祝 関東支部60周年

同窓会支部の益々のご発展をお祈り
いたします。

見中・磐田南高等学校 同窓会
会長 櫻井 孝順

まるや薬局

本店

袋井市川井 消防署東
TEL (0538) 42-3654

久能店

袋井市久能 聖隷袋井市民病院入口
TEL (0538) 41-0631

高21回 木野 省三 高54回 井上まり奈 高56回 木野 旅人

母校の発展を祈る



磐田南高8回生

会計報告

平成25年度磐田南高校同窓会会計予算

収入 平成25年4月1日～26年3月31日 (単位：円)

科 目	金 額	備 考
同窓会入会金	3,888,000	平成25年3月卒業生324名×12,000円
預金利息・配当金	50,000	
寄 付 金	200,000	卒業40周年寄付金(高25回)
雑 収 入	250,000	同窓会報広告代等
前年度繰越金	234,137	
合 計	4,622,137	

支出 (単位：円)

科 目	金 額	備 考
会務費	1,650,000	
会 議 費	300,000	役員会、評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	400,000	同窓会総会、慰霊祭費用等
支部総会・年次運営費等	640,000	支部総会助成、祝儀、旅費等
慶 弔 費	250,000	転退職餞別、慶弔費等
事 務 費	50,000	通信費、事務費等
事務局費	10,000	人件費、交通費
事業費	2,740,000	
卒業記念品代	200,000	校章入り印鑑
会報発行費	2,200,000	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	150,000	東海大会等出場選手激励金
諸 費	190,000	ホームページ運営費
予備費	232,137	
予 備 費	232,137	
合 計	4,622,137	

平成24年度磐田南高校同窓会会計決算

収入 平成24年4月1日～25年3月31日 (単位：円)

科 目	金 額	備 考
同窓会入会金	3,804,000	平成24年3月卒業生317名分
預金利息・配当金	34,982	
寄 付 金	200,000	卒業40周年寄付金(高24回生)
雑 収 入	365,520	同窓会報広告代等
前年度繰越金	211,410	
合 計	4,615,912	

備考：平成25年3月卒業生同窓会入会金・後援会費 4,860,000円(15,000円×324名)は2月5日に入金されていますが、平成25年度分収入とさせていただきます。

支出 (単位：円)

科 目	金 額	備 考
会務費	1,518,720	
会 議 費	234,546	役員会、評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	369,956	同窓会総会、記念メダル代、慰霊祭費用等
支部総会・年次運営費等	635,080	支部総会助成、祝儀、旅費等
慶 弔 費	233,587	転退職餞別、慶弔費等
事 務 費	43,551	通信費、事務費等
事務局費	2,000	人件費、交通費
事業費	2,863,055	
卒業記念品代	196,020	校章入り印鑑
会報発行費	2,382,615	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	95,000	東海大会等出場選手激励金
諸 費	189,420	ホームページ運営費
合 計	4,381,775	
次年度繰越金	234,137	

●別途積立金会計		6.利付国債No.2	10,000,000
1.終身会費等の積立金(普通預金)	3,651,926	7.利付国債No.3	5,000,000
2.諸事業用予備金	2,042,037	8.利付国債(No.1～3)利金・利息	
3.定期預金(磐田信用金庫)	10,000,000		569,917
4.定期預金(静岡銀行)	10,087,561	9.磐田信用金庫への出資金	1,000,000
5.利付国債No.1	10,000,000	10.名簿会計	6,302,279
		合 計	¥58,653,720

平成24年度会務報告

4 / 6	母校入学式 保護者オリエンテーション 同窓会だより第34号編集委員会 (以後毎月継続して会合)
4 / 18	校内幹事会
4 / 19	会計監査
5 / 2	役員会・役員と校内幹事との懇親会
6 / 2	卒業50周年記念事業(高校15回) 母校に資金援助
6 / 8	役員会
6 / 16	評議員会・役員会 はぐま会館
7 / 20	役員会
8 / 18	総会前日打合せ(役員、当番年次、 校内幹事)
8 / 19	慰霊祭(高34回担当) 総会(高43回担当) 磐田グランドホテル 卒業40周年事業(高24回) 同窓会に資金援助20万円
10 / 10	同窓会だより34号発行
11 / 9	役員会、総会当番引継ぎ会 (高43、44回)
11 / 14	創立90周年記念式典
2 / 8	役員会
2 / 28	高校第65回同窓会入会式
3 / 1	高校第65回卒業式

平成25年度校内幹事役割分担

総務・役員会	永田 淳 佐藤 正明 鈴木文基 鈴木 敦士 青木和彦 大沢 健一
庶 務	永田 淳 青島玲子 小杉友祐 村井雅子 小粥美穂
会 計	佐藤正明 青木和彦 鈴木敦士
名 簿	磯部欣宏 村松芳郎 藤井元喜
慶 弔	磯部欣宏 村松芳郎 柴田里沙
はぐま会館	大沢健一 嶋藤忠博 永田 淳
同窓会だより	鈴木文基 青島玲子 村井雅子 柴田里沙 小粥美穂
ホームページ	磯部欣宏 小杉友祐 駒形一路

例年になく猛暑の中、8月18日(日)午前中には35回生によって慰霊祭が厳かに執り行われました。また、午後には44回生担当により総会が挙行され、本校44回生、作曲・編曲家で全国的に活躍されている山下康介さんの曲を本校OB中心のトリオが演奏し、楽しい雰囲気の中、大いに盛り上がりを見ました。当番年次の皆さんの御尽力に感謝申し上げます。

また、昨年度は学校創立90周年に当たり多くの方々から多大なご寄付を賜り、大変有難うございました。
(校内幹事 永田 淳)

事務局より報告

★平成 25 年度各種当番年次★

卒業 10 周年	高校 54 回生 (新年次委員選出)
卒業 20 周年	高校 44 回生 (総会担当)
卒業 30 周年	高校 35 回生 (慰霊祭担当)
卒業 40 周年	高校 25 回生 (同窓会に資金援助)
卒業 50 周年	高校 16 回生 (南高校に資金援助・同窓会より銅メダル贈呈)
卒業 60 周年	高校 6 回生 (同窓会より銀メダル贈呈)
卒業 70 周年	見中 17 回生 (同窓会より金メダル贈呈)



今年は総会前日の8月17日午後、うだる様な残暑の中、同窓会役員が墓前を訪れ法要を営みました。

いつも変らぬお心で、私達を温かく見守って頂いている様でした。

先生は昭和29年2月5日東京の病院でお亡くなりになりましたが、先生が関東支部を立上げられ60周年、ちょうど60回忌となりました。



開架図書(校内図書)のOB文庫に加えて、図書館書庫には様々なものが眠っています。例えば、昭和2年(1927年)までの卒業課題論文集45冊。

当時の磐南生が万年筆で綴り、製本された論文集です。その中でも目を引くのは昭和2年に執筆された論文「水と人生」。水の科学的分析と人生の言及に当時の若者らしさを感じさせてくれます。

(校内幹事 永田 淳)

編集室より

第35号の記事は、盛りだくさんの内容となり、18面に増やしての発行となりました。

母校創立90周年行事の特筆すべきは、尾崎校長の頌徳碑が、南正門前に移設された事です。同窓会員の皆様には、多数の方々に募金を御協力いただきありがとうございました。

第34号の訂正とお詫び	7頁
・友田好↓友田好	
・「磐南の道程」の著者	高25回↓高23回
編集委員	
櫻井 孝順(高17)	鈴木美智子(高8)
鈴木 昭次(高12)	橋本 洋子(高14)
伊藤 英明(高15)	鈴木 智子(高23)
袴田 悦子(高16)	横井 純夫(高23)
高橋耕太郎(高18)	鈴木 文基(高27)
原田 康代(高20)	